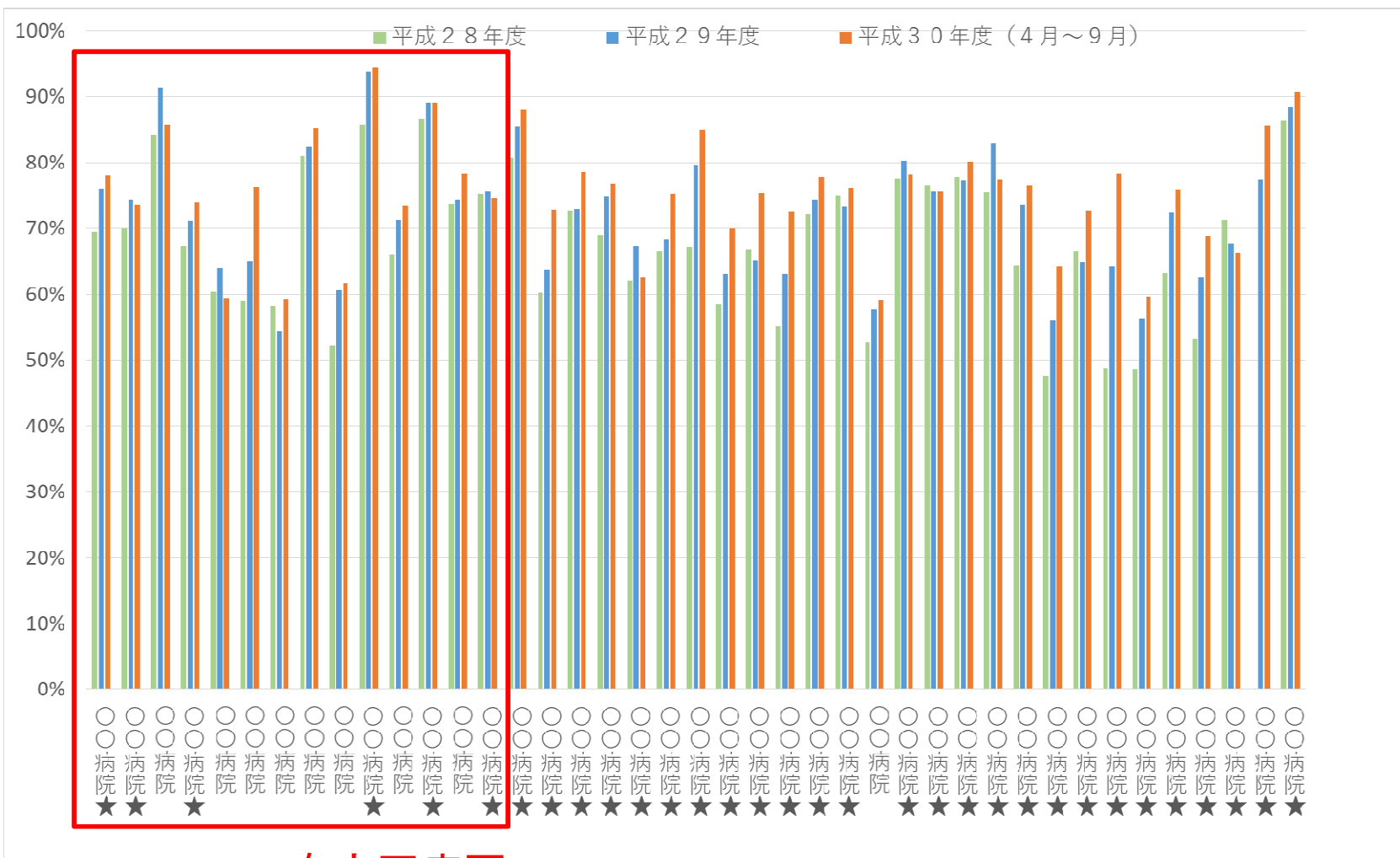


「断らない病院」の機能発揮に向けて

急性期医療の提供状況

[奈良医療圏] 医療機関ごとの応需率推移

- 応需率は県平均、奈良医療圏平均ともに上昇。
- 奈良医療圏の応需率平均は、県平均を上回っており、応需率平均は5医療圏で2番目である。
- 個々の病院でみると、応需率が50-60%台の病院があり、また県平均(78.7%)を上回っている病院は14病院中4病院と、病院毎に応需率のバラつきがある状況である。



平成28年度
 県平均 69.9%
 奈良平均 76.1%



平成29年度
 県平均 74.9%
 奈良平均 81.1%



**平成30年度
 (4月~9月)**
 県平均 78.7%
 奈良平均 82.1%

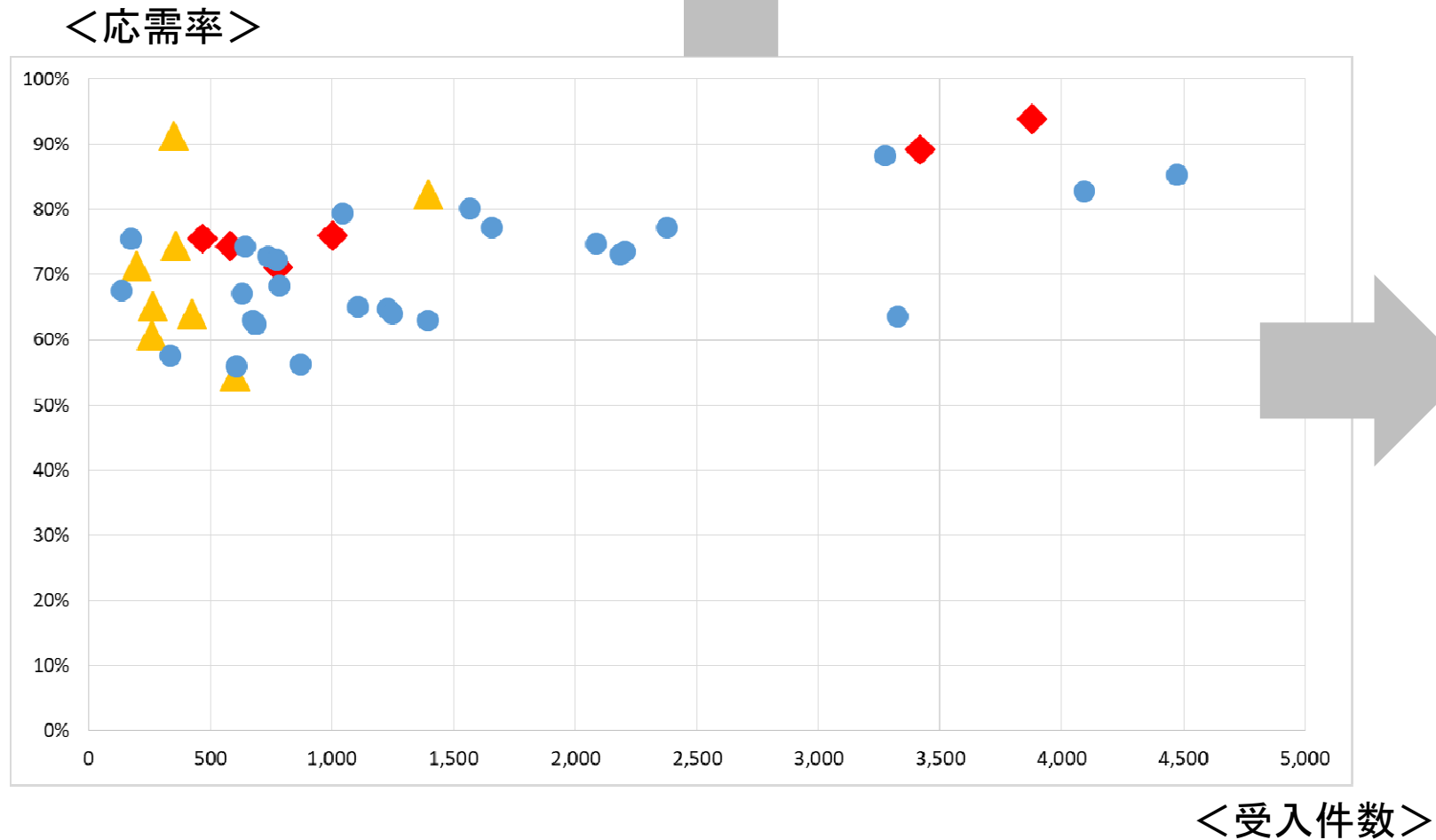
奈良医療圏

※ 救急告示病院の実績
 ※ 病院名の★は高度急性期、重症急性期病院を示す

(応需率) = (「受入可」返答数) / (照会件数)

救急告示病院ごとの受入件数と応需率<2017年度>

「頼まれたら断らない」

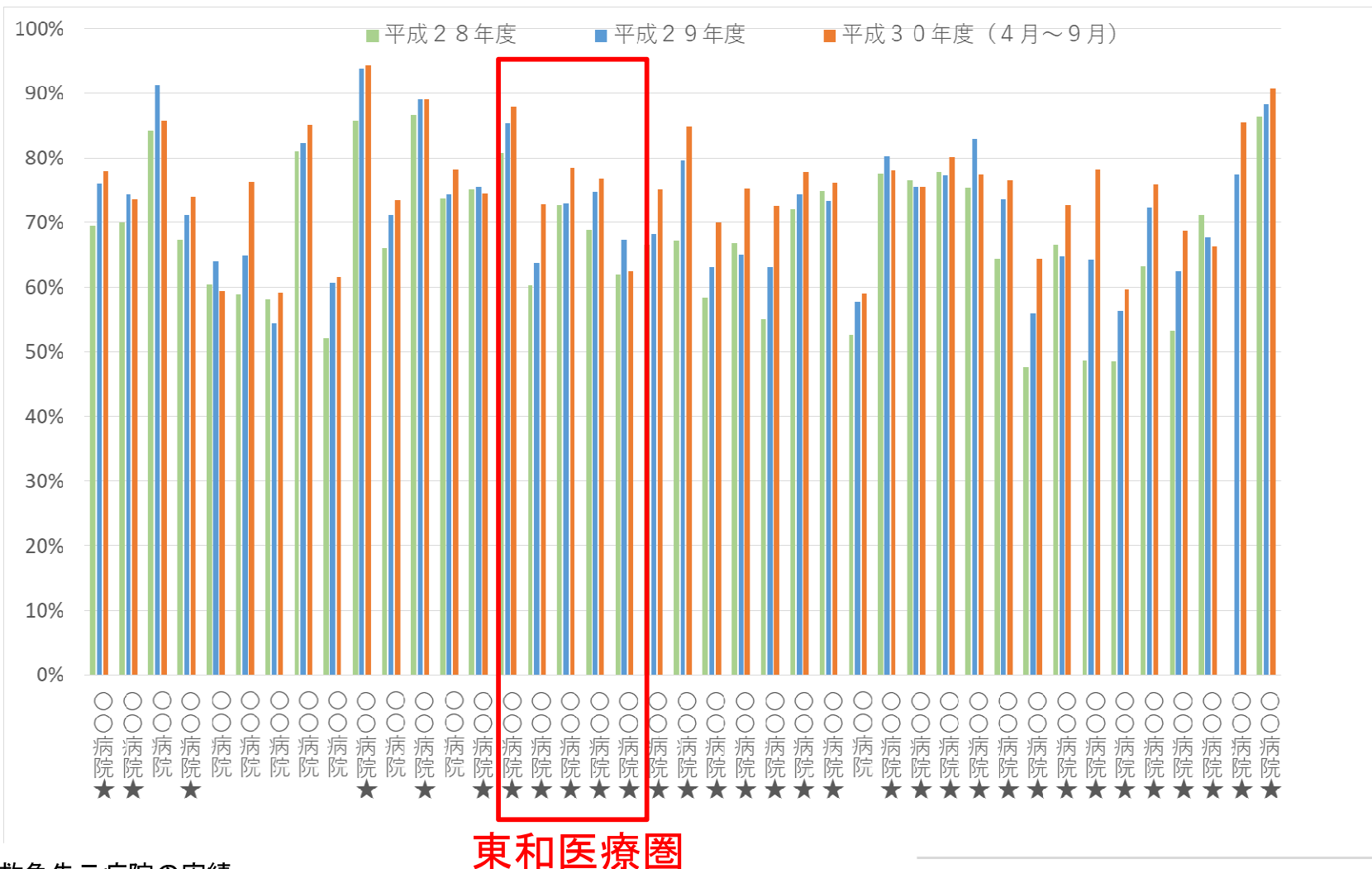


「受け入れ件数が多い」

- ◆ 奈良医療圏の高度急性期・重症急性期病院 (断らない病院)
- ▲ 奈良医療圏の軽症急性期・回復期・慢性期病院 (面倒見のいい病院)
- 他医療圏の病院

[東和医療圏] 医療機関ごとの応需率推移

- 応需率は県平均、東和医療圏平均ともに上昇。直近3年間の東和の応需率平均は県平均並みで推移。
- 5医療機関中の4医療機関が、直近3年で10%前後応需率を伸長させている。
- 医療圏毎の応需率平均の上昇度でみると、5医療圏中2番目の状態である。
- 5医療機関毎の応需率は、60%強～90%弱と若干のバラつきがある。



平成28年度

県平均 69.9%
東和平均 70.0%



平成29年度

県平均 74.9%
東和平均 74.0%



**平成30年度
(4月～9月)**

県平均 78.7%
東和平均 78.8%

※ 救急告示病院の実績
※ 病院名の★は高度急性期、重症急性期病院を示す

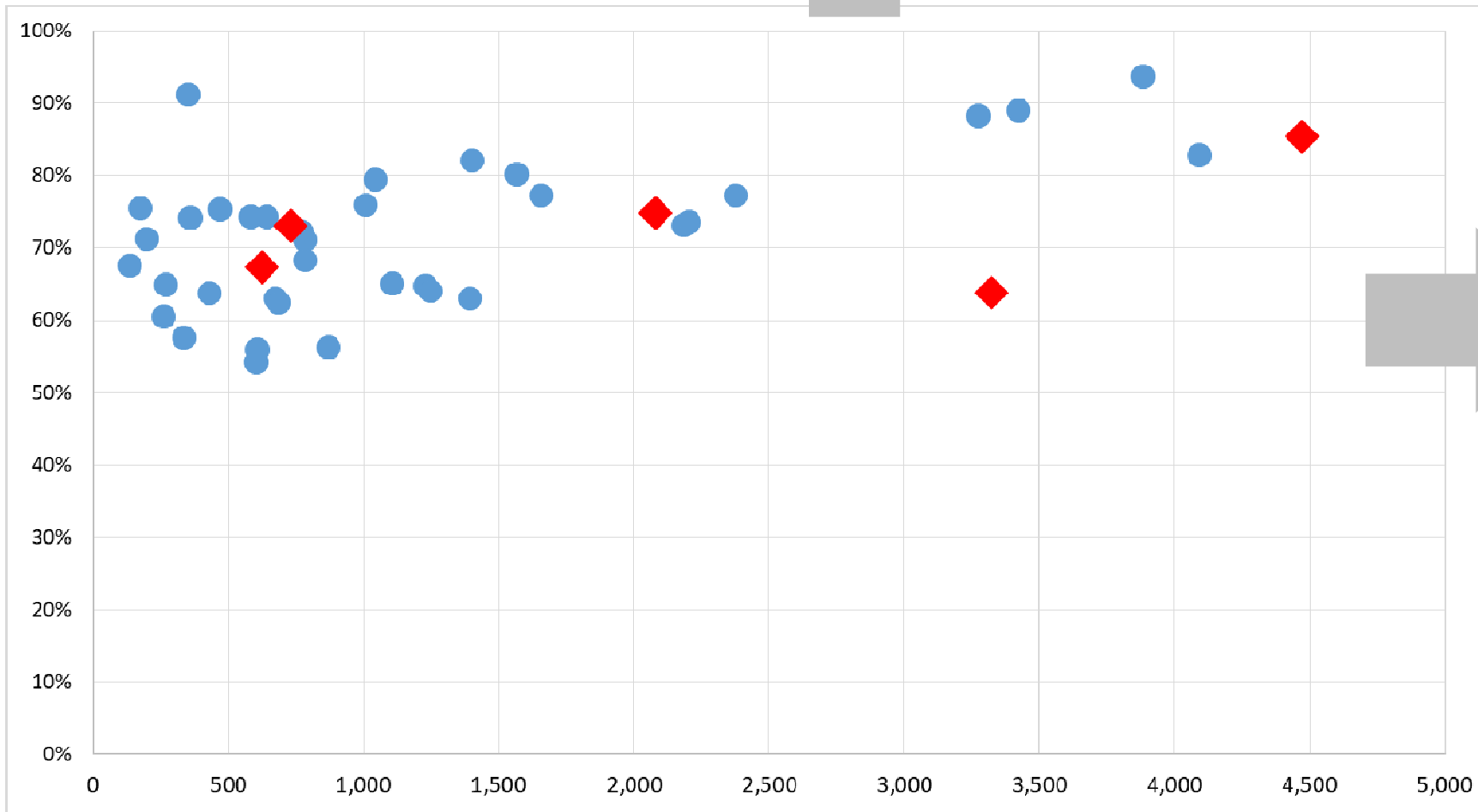
(応需率) = (「受入可」返答数) / (照会件数)

<出典: e-MATCHデータ>

救急告示病院ごとの受入件数と応需率<2017年度>

「頼まれたら断らない」

<応需率>



「受け入れ件数が多い」

<受入件数>

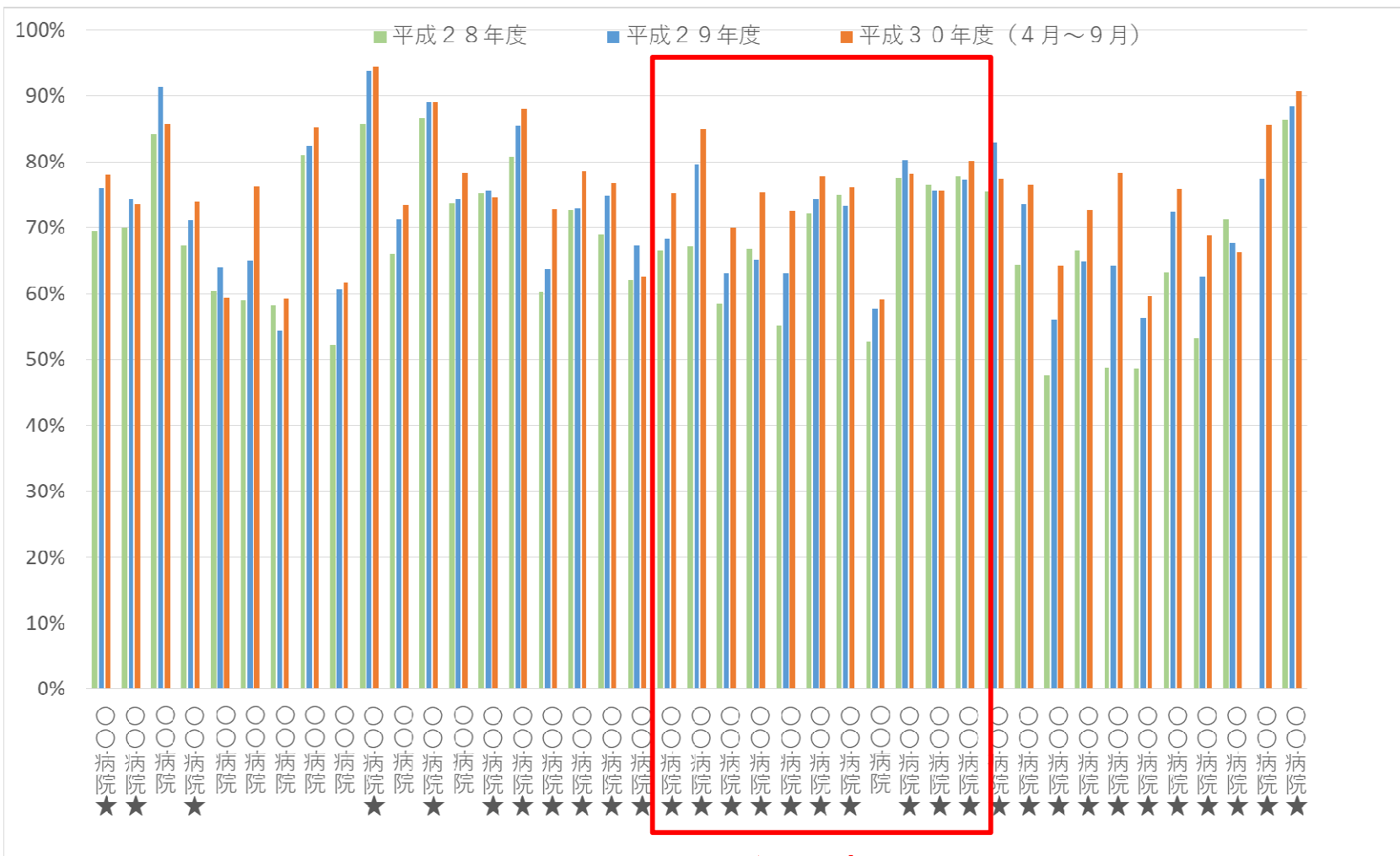
- ◆ 東和医療圏の高度急性期・重症急性期病院 (断らない病院)
- 他医療圏の病院

[西和医療圏] 医療機関ごとの応需率推移

○応需率は県平均、西和医療圏平均ともに上昇。

○西和医療圏の応需率平均は、上昇を続けているものの県平均を下回っている。(5医療圏で4番目)

←中和医療圏において、二次救急輪番体制の整備(葛城地区)やER型救急体制の整備が進むなど、他医療圏で応需率の上昇の伸びが大きい。



平成28年度
 県平均 69.9%
 西和平均 68.6%



平成29年度
 県平均 74.9%
 西和平均 71.4%



平成30年度 (4月~9月)
 県平均 78.7%
 西和平均 76.3%

西和医療圏

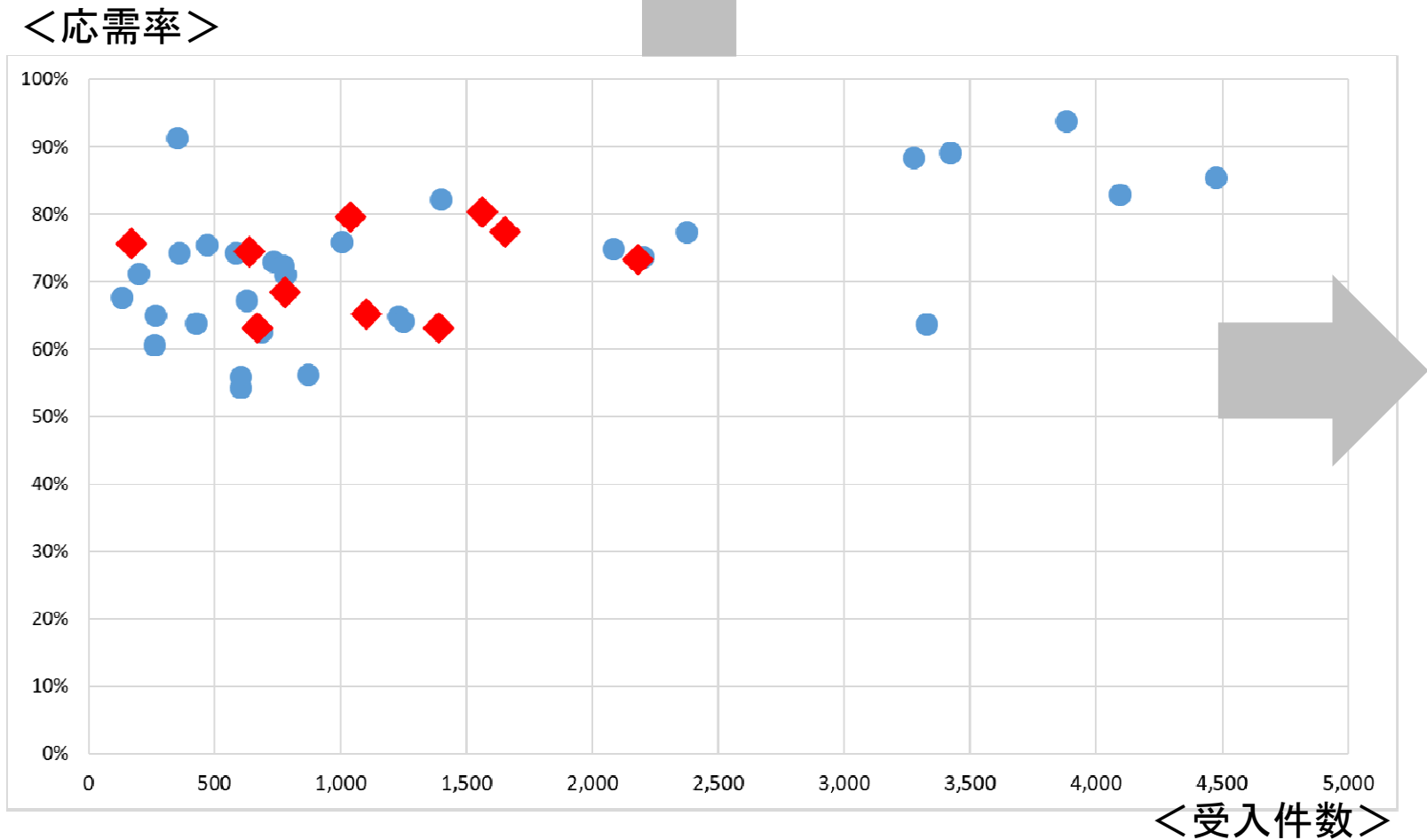
(応需率) = (「受入可」返答数) / (照会件数)

<出典: e-MATCHデータ>

※ 救急告示病院の実績
 ※ 病院名の★は高度急性期、重症急性期病院を示す

救急告示病院ごとの受入件数と応需率<2017年度>

「頼まれたら断らない」

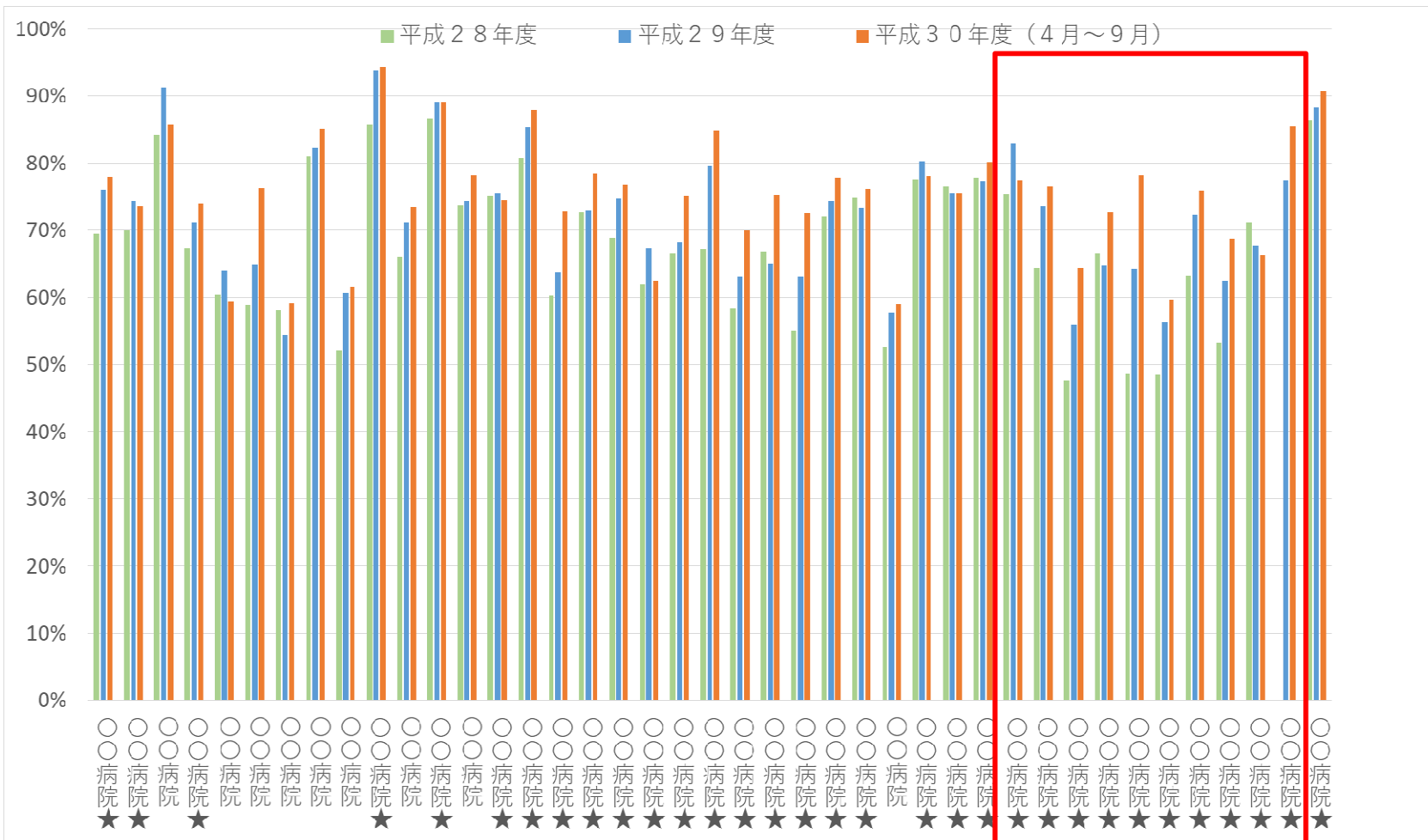


「受け入れ件数が多い」

- ◆ 西和医療圏の高度急性期・重症急性期病院(断らない病院)
- 他医療圏の病院

[中和医療圏] 医療機関ごとの応需率推移

- 応需率は県平均、中和医療圏平均ともに上昇。
- 平成28年度には県平均より10ポイント下回っていた中和医療圏の応需率平均は、平成29年度、30年度で大きく上昇。
← 二次救急輪番体制の整備(葛城地区)やER型救急体制の整備が進んだこと等による。
- 医療圏毎の応需率平均では、中和医療圏は5医療圏中5番目である。



平成28年度
 県平均 69.9%
 中和平均 59.9%



平成29年度
 県平均 74.9%
 中和平均 71.7%



平成30年度 (4月~9月)
 県平均 78.7%
 中和平均 76.3%

中和医療圏

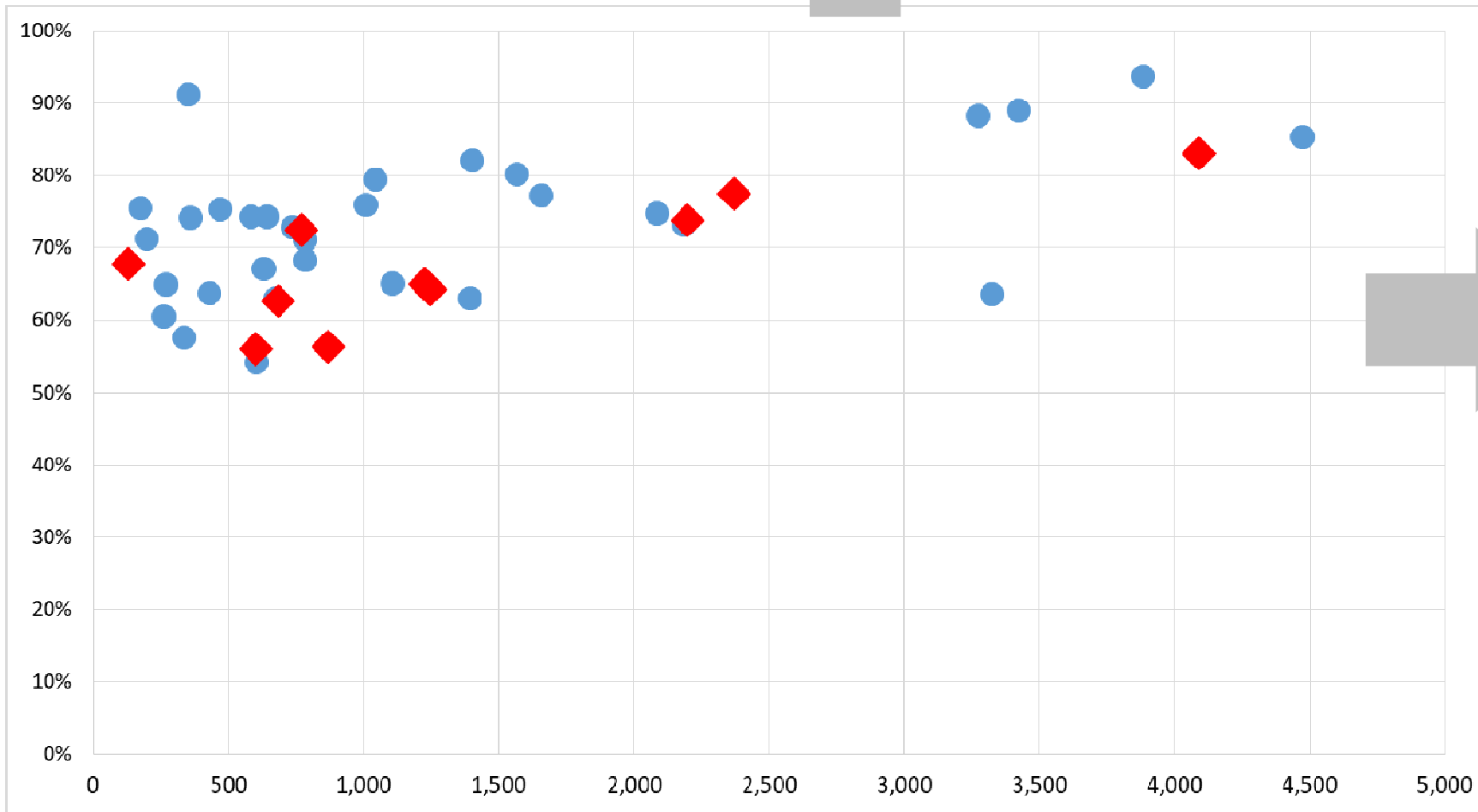
※ 救急告示病院の実績
 ※ 病院名の★は高度急性期、重症急性期病院を示す

(応需率) = (「受入可」返答数) / (照会件数)

救急告示病院ごとの受入件数と応需率<2017年度>

「頼まれたら断らない」

<応需率>



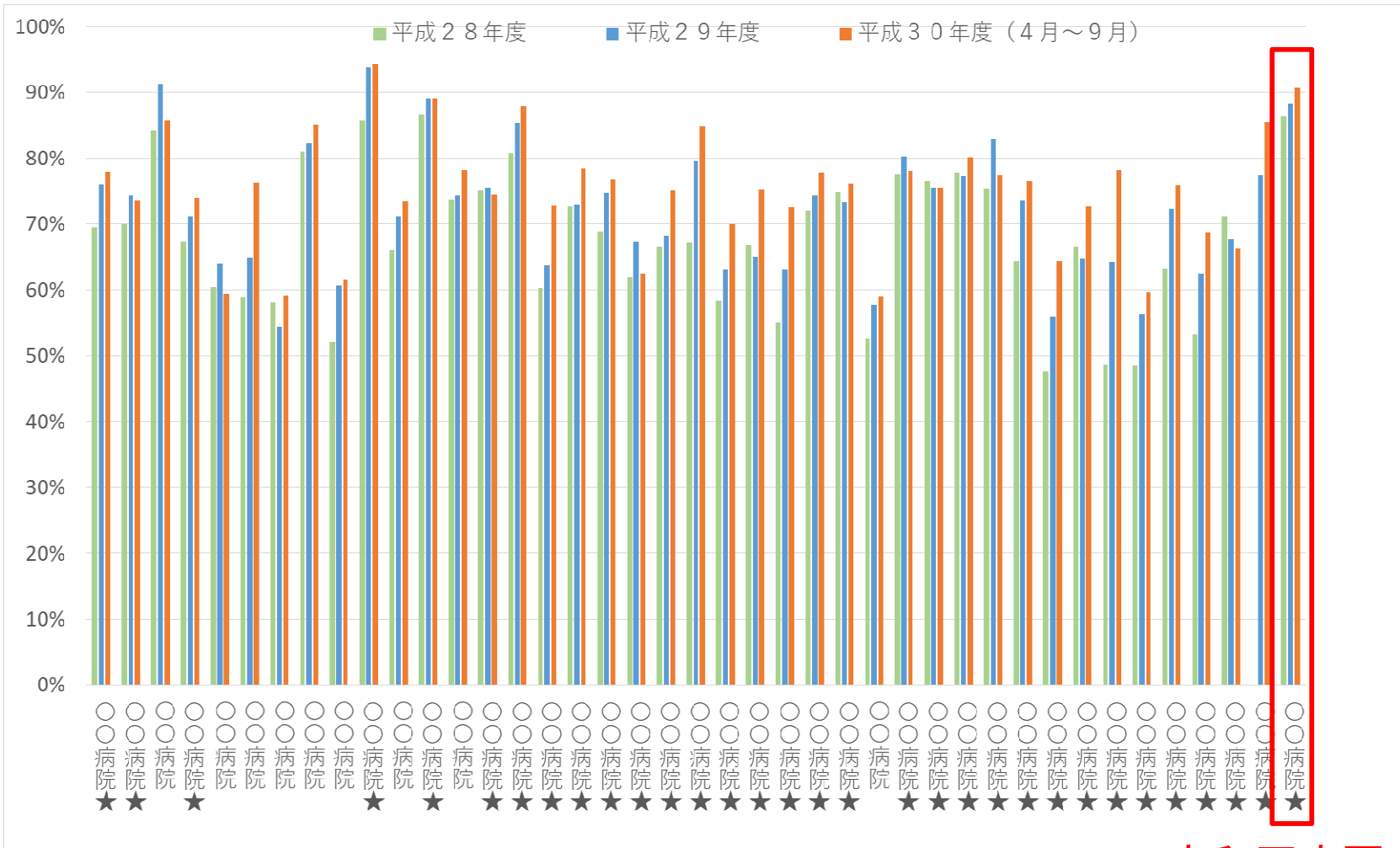
「受け入れ件数が多い」

<受入件数>

- ◆・・・中和医療圏の高度急性期・重症急性期病院(断らない病院)
- ・・・他医療圏の病院

[南和医療圏] 医療機関ごとの応需率推移

- 応需率は県平均、南和医療圏平均ともに上昇。
- 医療圏毎の応需率平均では、南和医療圏は5医療圏中1番目である。
- 南和の救急告示病院は1病院で、県内の他医療機関と比べると、応需率・受入件数ともに非常に高い数字である。



平成28年度
 県平均 69.9%
 南和平均 86.4%



平成29年度
 県平均 74.9%
 南和平均 88.3%



**平成30年度
 (4月~9月)**
 県平均 78.7%
 南和平均 90.6%

南和医療圏

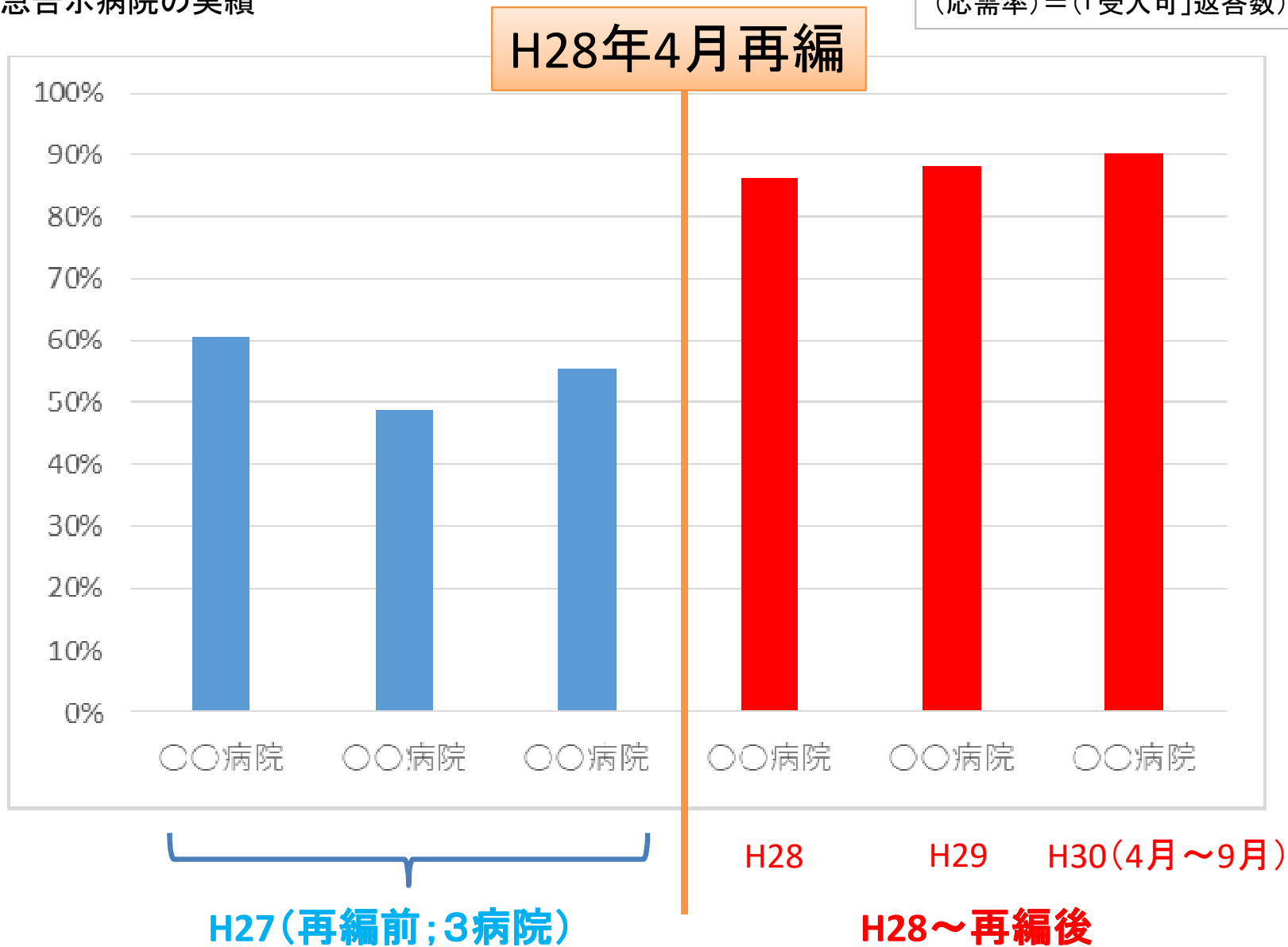
※ 救急告示病院の実績
 ※ 病院名の★は高度急性期、重症急性期病院を示す

医療機関ごとの応需率推移

南和医療圏 H27(再編前)と、H28~(再編後)の比較

※ 救急告示病院の実績

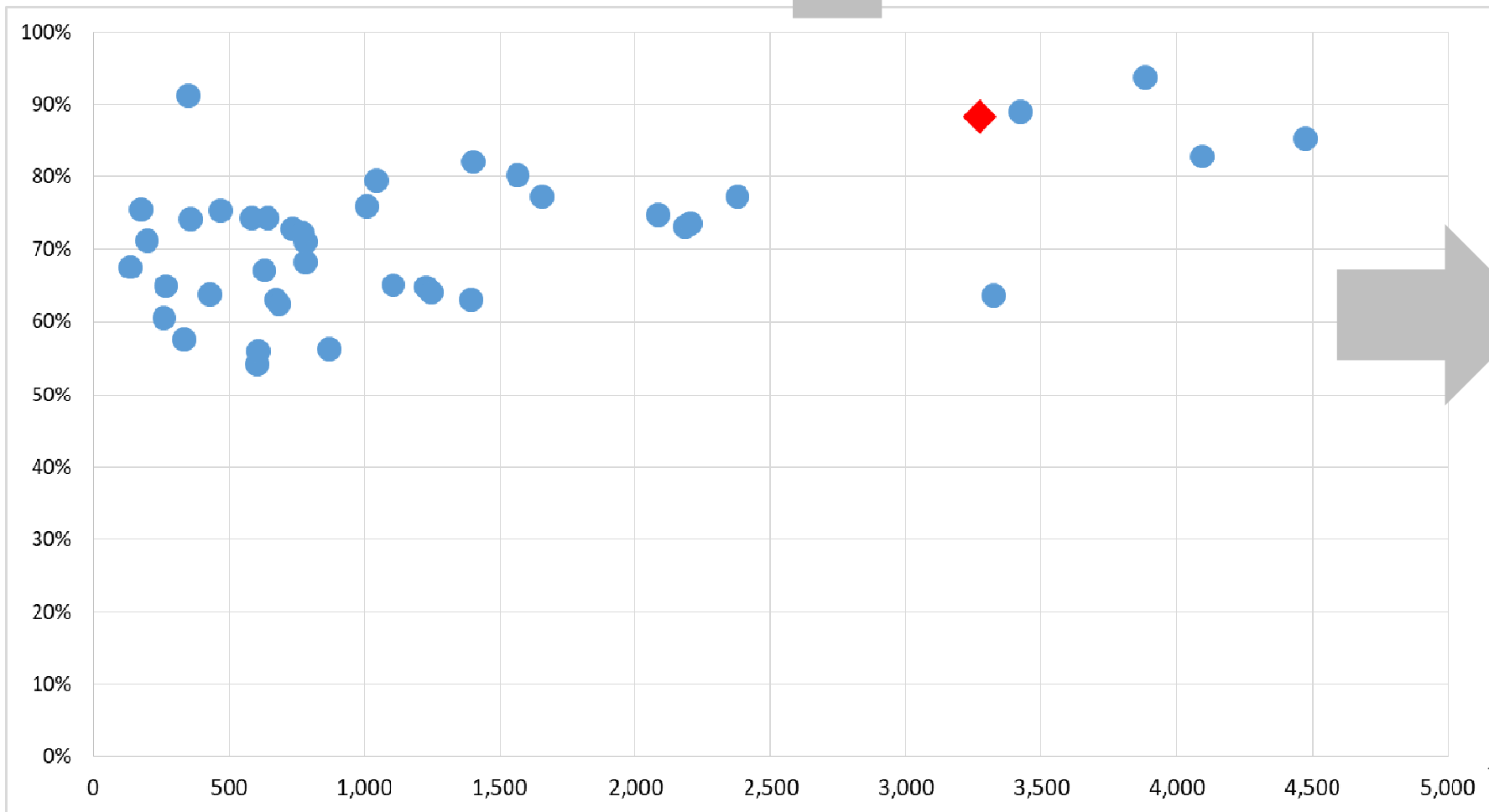
(応需率) = (「受入可」返答数) / (照会件数)



救急告示病院ごとの受入件数と応需率<H29年度>

「頼まれたら断らない」

<応需率>



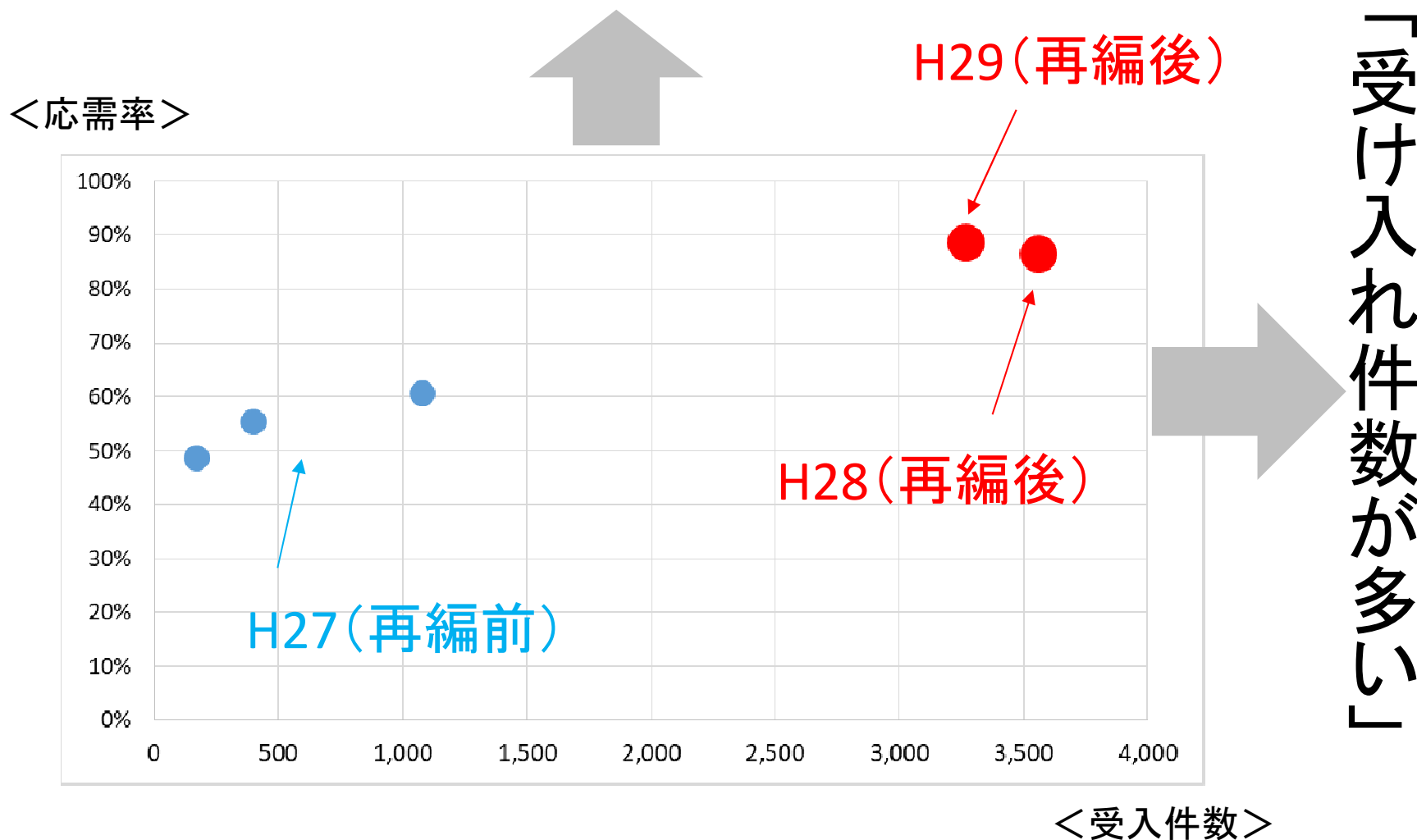
「受け入れ件数が多い」

<受入件数>

- ◆ 南和医療圏の高度急性期・重症急性期病院(断らない病院)
- 他医療圏の病院

救急告示病院ごとの受入件数と応需率 南和医療圏 H27(再編前)と、H28~(再編後)の比較

「頼まれたら断らない」



「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」及び「5大がん」 入院患者の患者受療動向

- ・奈良県市町村国保と後期高齢者医療制度の被保険者データ
- ・県内または県外の病院における入院
- ・平成28年4月～平成29年3月、及び平成29年4月～平成30年3月診療分データ
- ・総計10件未満の圏域及び府県の「%」を削除

【留意事項】

- ・国保、後期データに限られるため、65歳未満の人口カバー率が低い。
- ・各入院について一つの主たる疾患を同定し、集計を行っており、その際、疑い病名以外で高い記載順位・主傷病を優先している。このため、実態よりも過小評価している可能性がある。

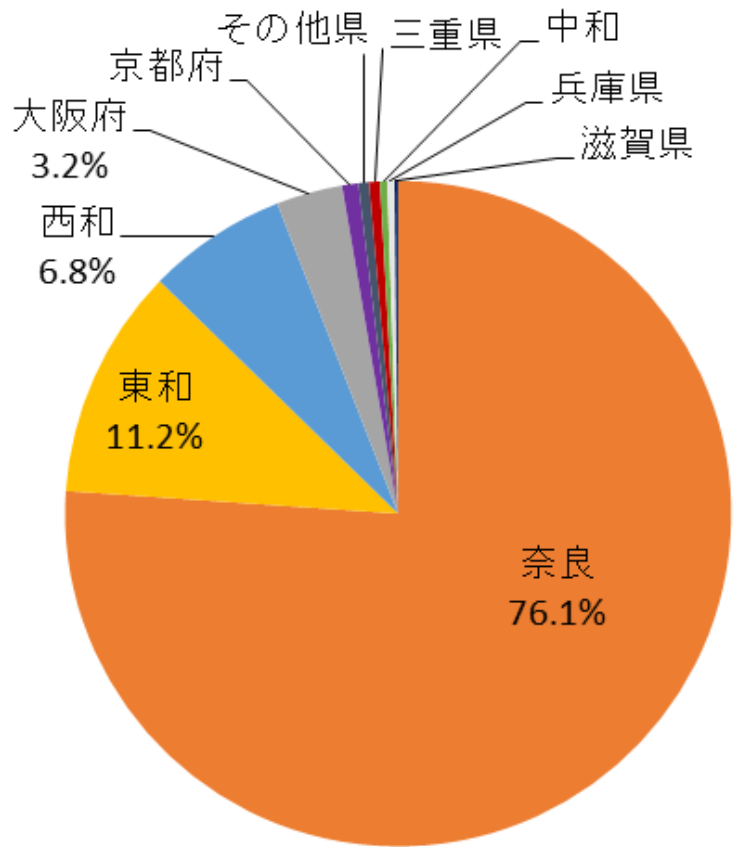
「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」
入院患者の患者受療動向

「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向(奈良医療圏)

○奈良市の患者は、約8割が奈良医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院にも1割強が入院している。
H28からH29で割合に大きな変化はない。

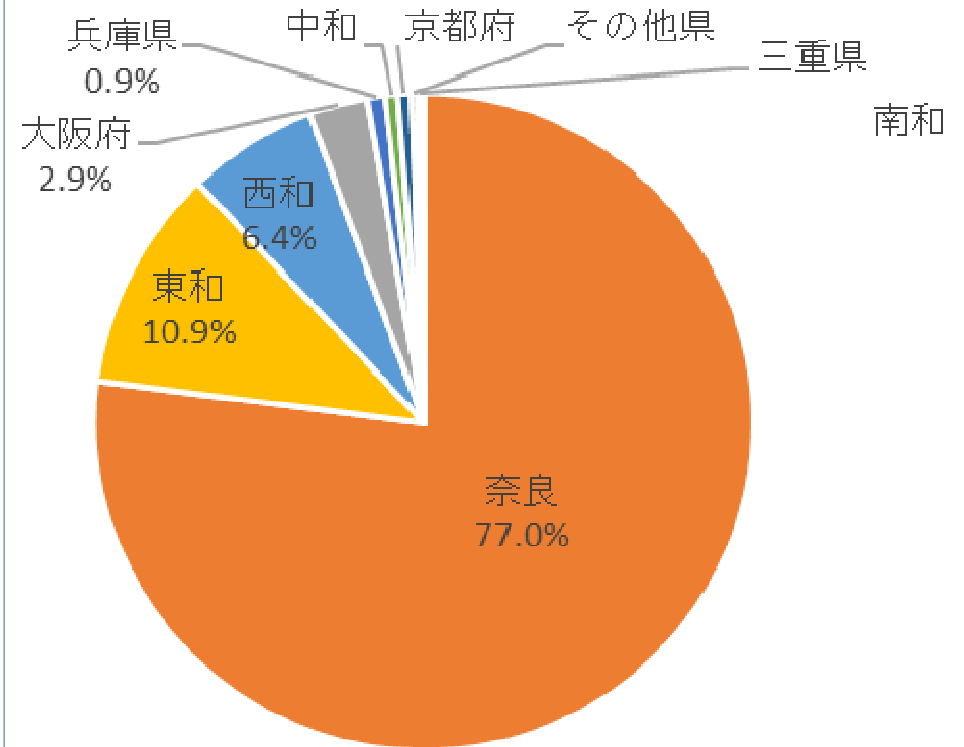
H28年度

奈良市在住者の「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の入院先医療圏



H29年度

奈良市在住者の「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の入院先医療圏



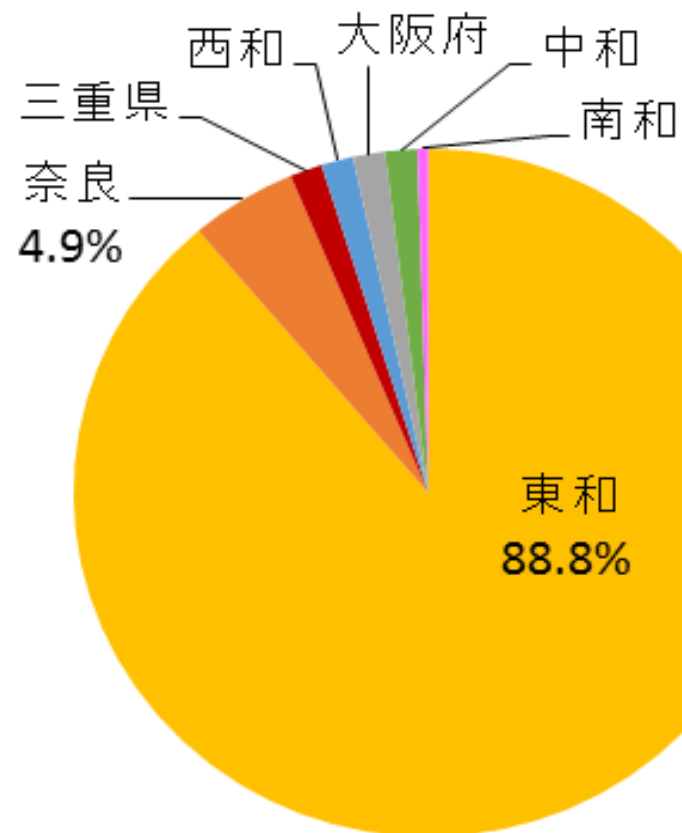
「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向(東和医療圏1)

○天理市、山添村の患者は、8割強が東和医療圏の病院に入院している。

H28からH29で、東和への入院が減少し、西和、三重県等への入院が増加している。

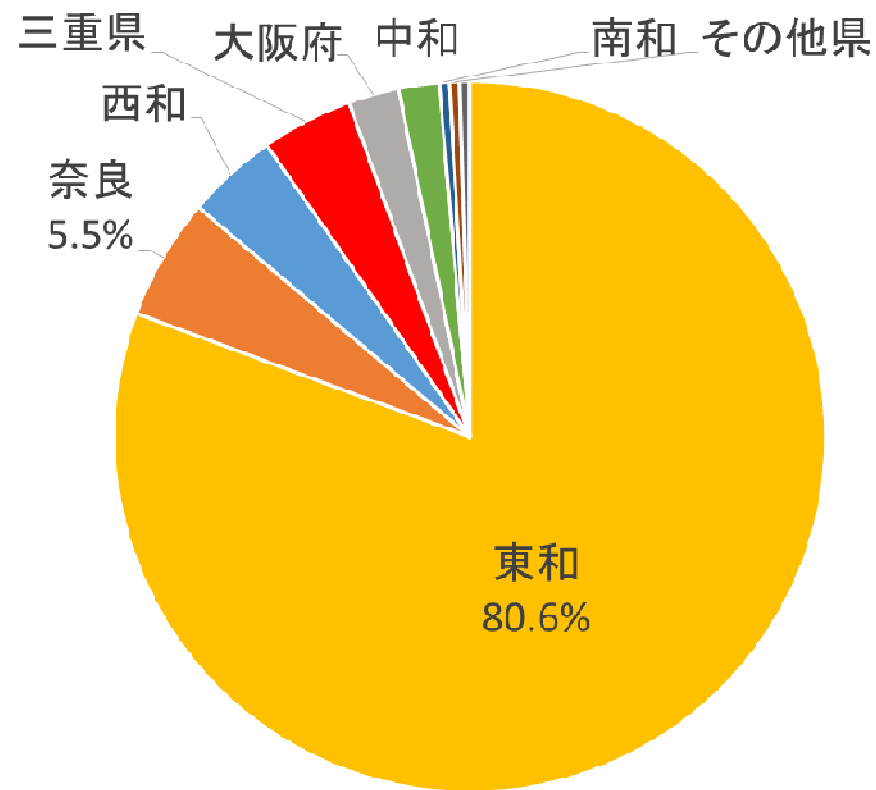
H28年度

天理市、山添村在住者の「脳梗塞 等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

天理市、山添村在住者の「脳梗塞 等」入院患者の入院先医療圏



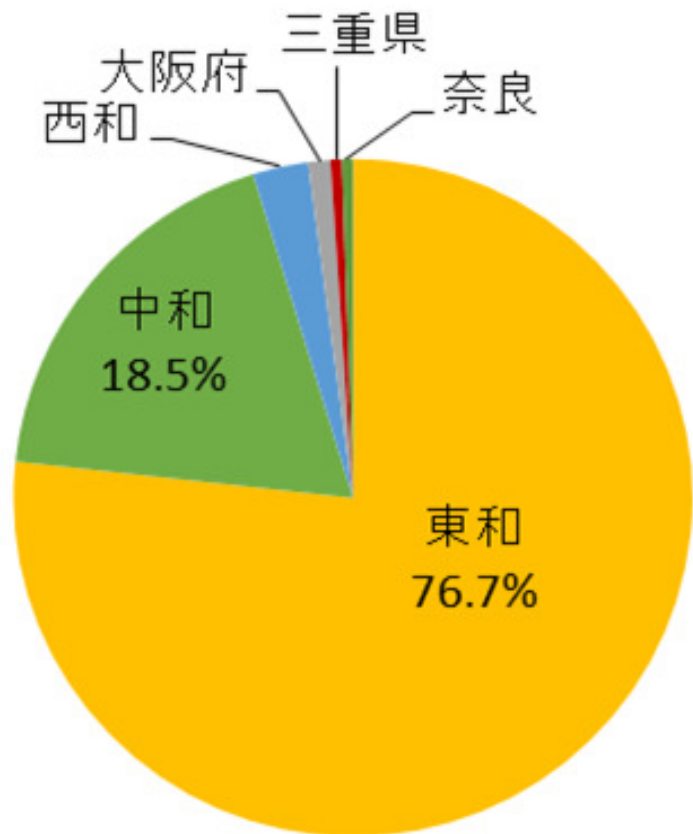
「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向（東和医療圏2）

○桜井市の患者は、約7割が東和医療圏の病院に入院しており、中和医療圏の病院にも各2割程度が入院している。

H28からH29で、東和への入院が減少し、中和への入院が増加している。

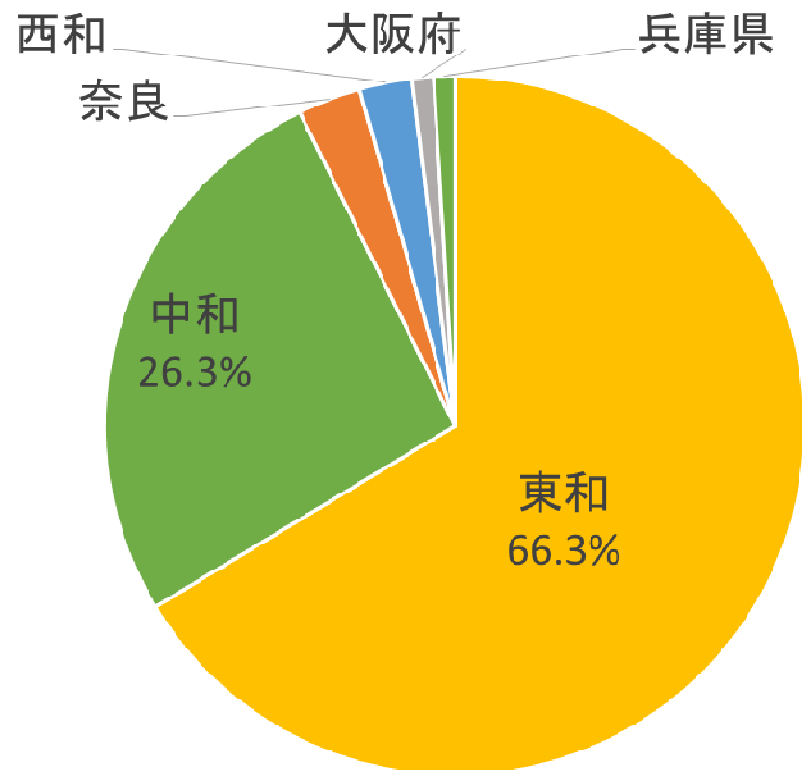
H28年度

桜井市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

桜井市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏

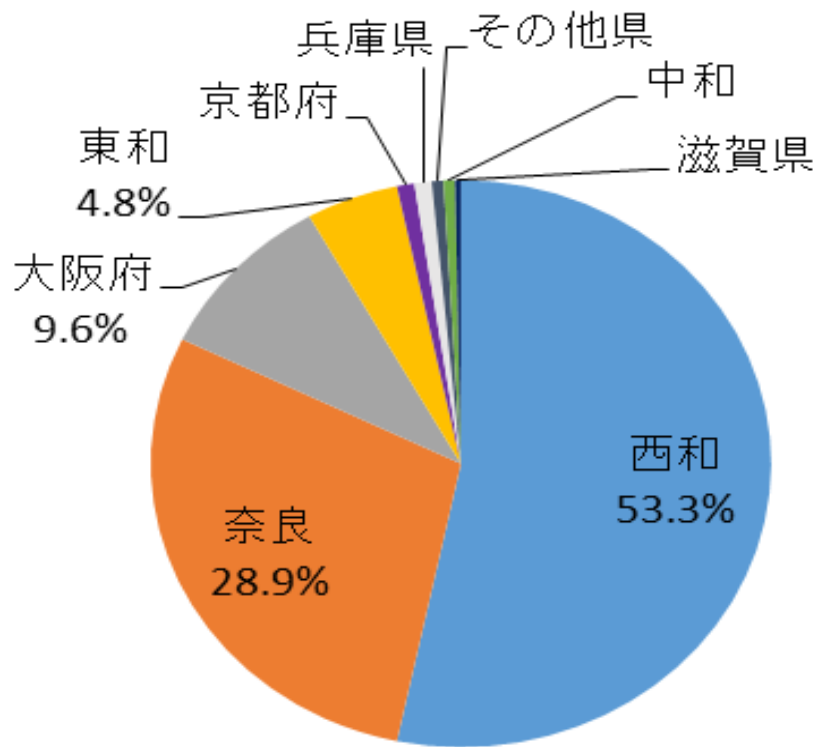


「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向（西和医療圏1）

○生駒市の患者は、半数強が西和医療圏の病院に入院しており、奈良医療圏の病院にも約3割、大阪府の病院にも1割程度が入院している。H28からH29で、割合に大きな変化はない。

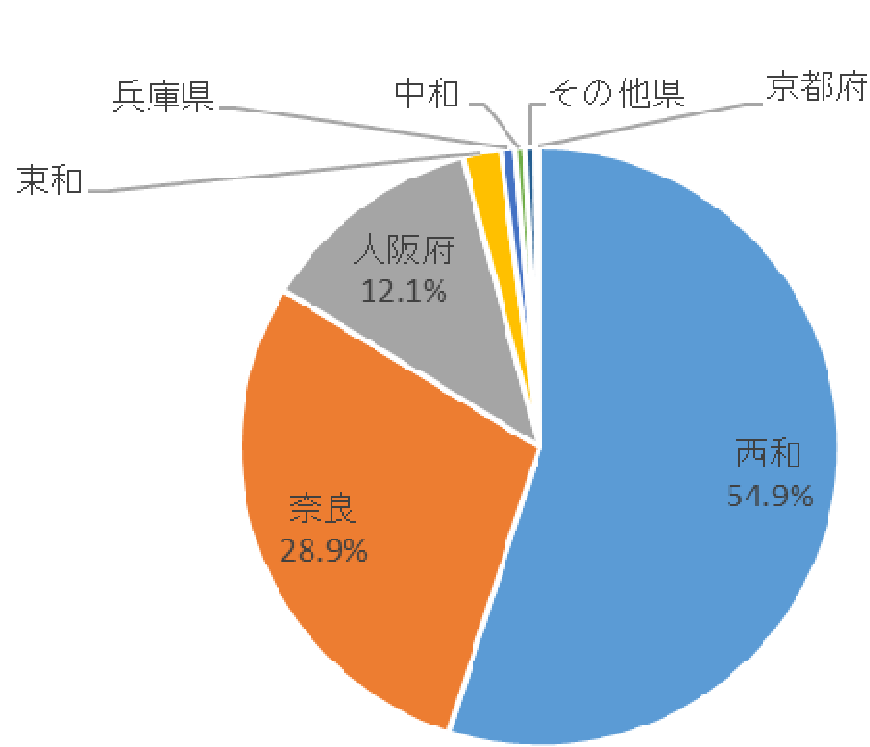
H28年度

生駒市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

生駒市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏

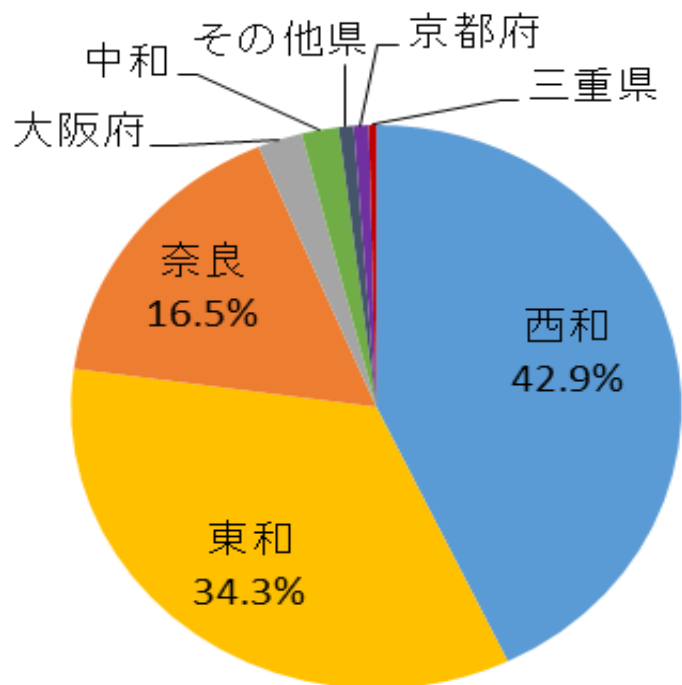


「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向（西和医療圏2）

○大和郡山市の患者は、約4割が西和医療圏の病院に入院しており、東和及び奈良医療圏の病院にも各2～3割程度が入院している。
H28からH29で、西和医療圏への入院が減少し、奈良医療圏への入院が増加。

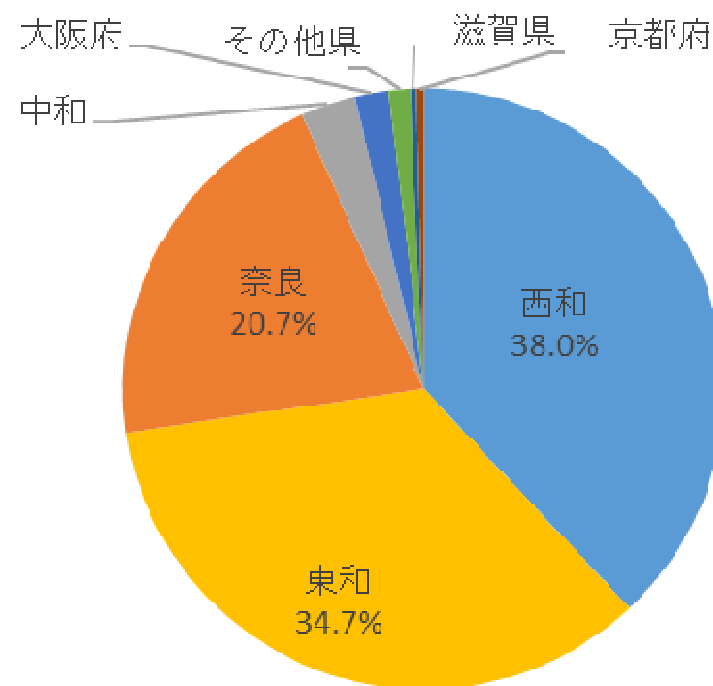
H28年度

大和郡山市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

大和郡山市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



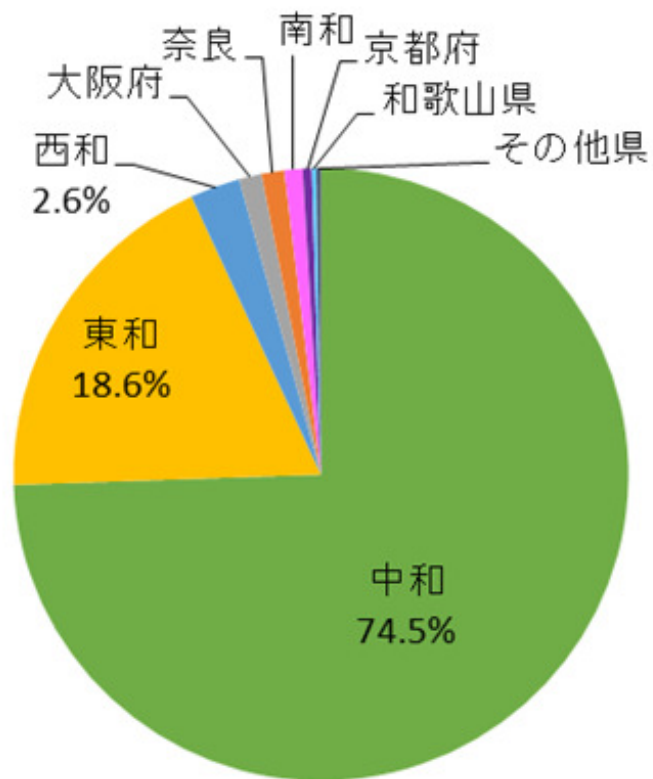
「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向(中和医療圏1)

○ 橿原市の患者は、7割強が中和医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院にも約2割入院している。

H28からH29で、割合に大きな変化はない。

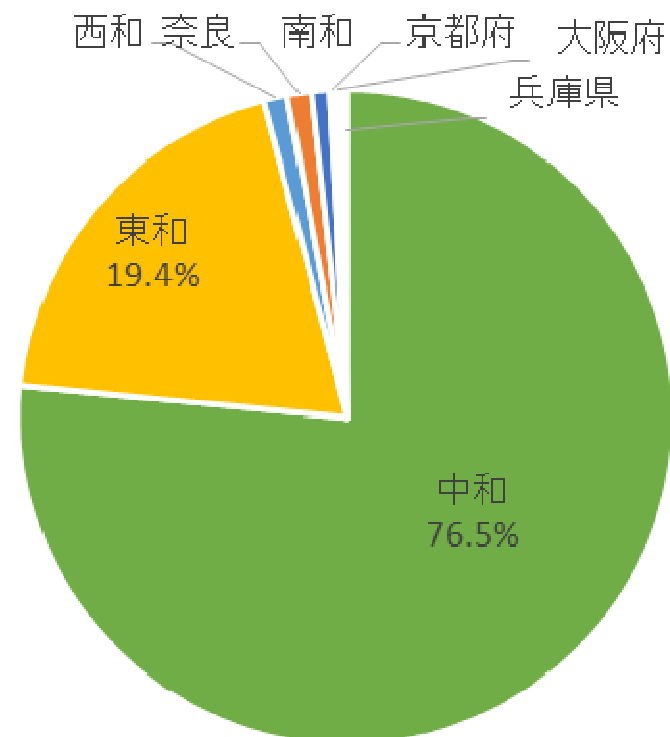
H28年度

橿原市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

橿原市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏

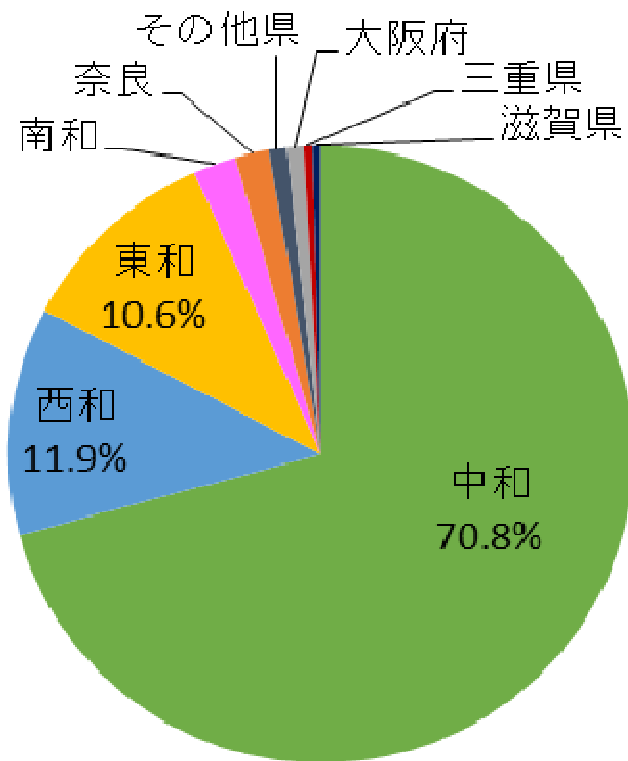


「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向（中和医療圏2）

○大和高田市の患者は、約7割が中和医療圏の病院に入院しており、東和及び西和医療圏の病院にも各1割程度が入院している。
H28からH29で、割合に大きな変化はない。

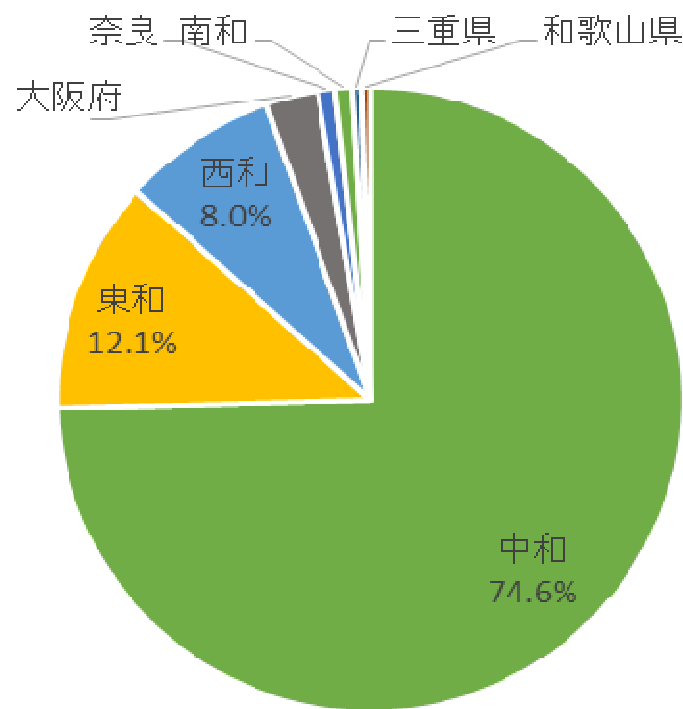
H28年度

大和高田市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

大和高田市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏

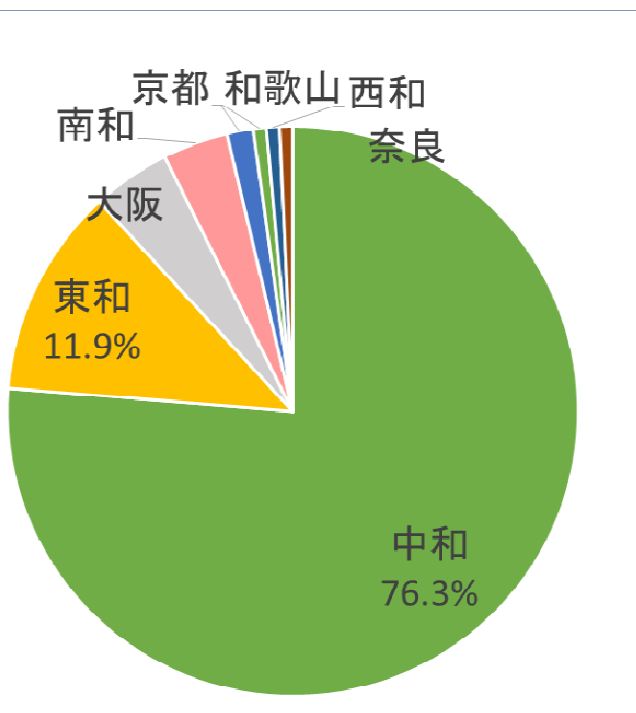


「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向(中和医療圏3)

○御所市の患者は、6割強が中和医療圏の病院に入院しており、南和医療圏の病院にも約2割、東和医療圏の病院にも約1割入院している。
H27からH28・H29で、南和への入院が増加。要因はH28の南奈良総合医療センターの開院による。

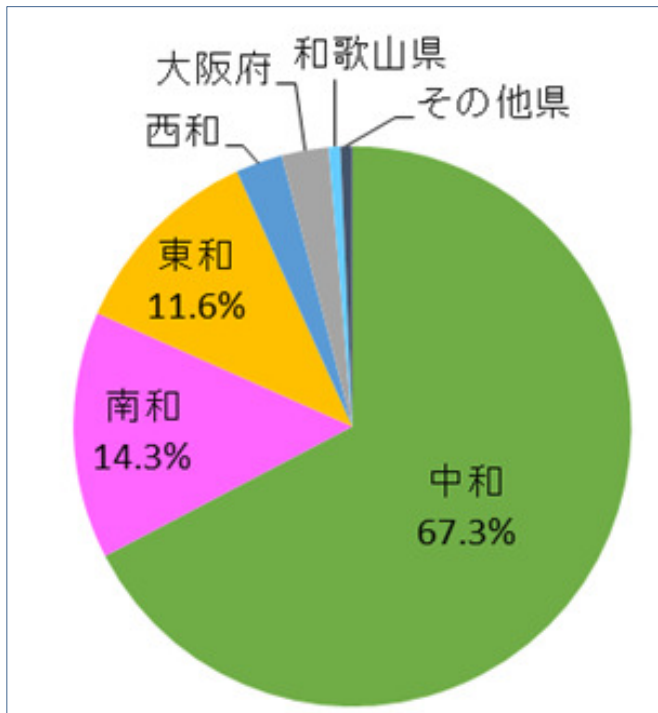
H27年度

御所市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



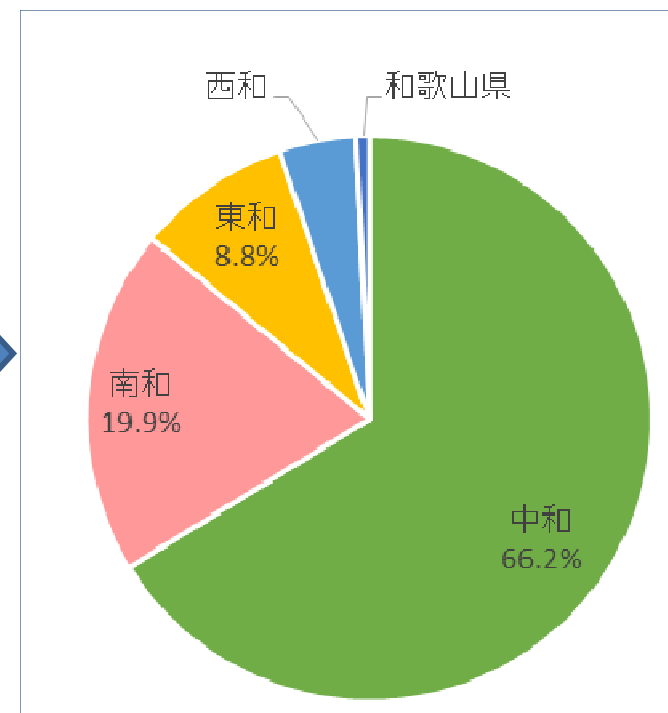
H28年度

御所市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

御所市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏

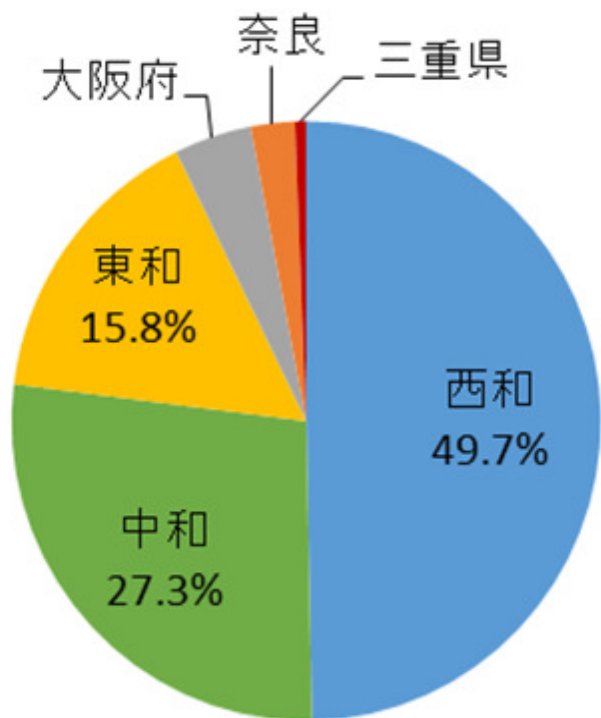


「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向（中和医療圏4）

○香芝市の患者は、多くが中和もしくは西和医療圏に入院しているが、H28からH29で中和医療圏への入院が増えており、要因はH29の香芝生喜病院の開院による。東和医療圏及び大阪府にも各1割程度が入院している。

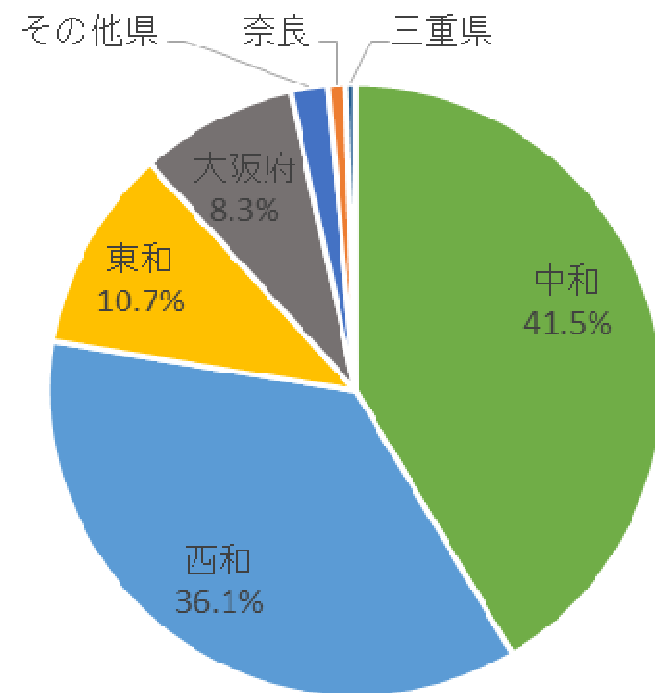
H28年度

香芝市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

香芝市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏

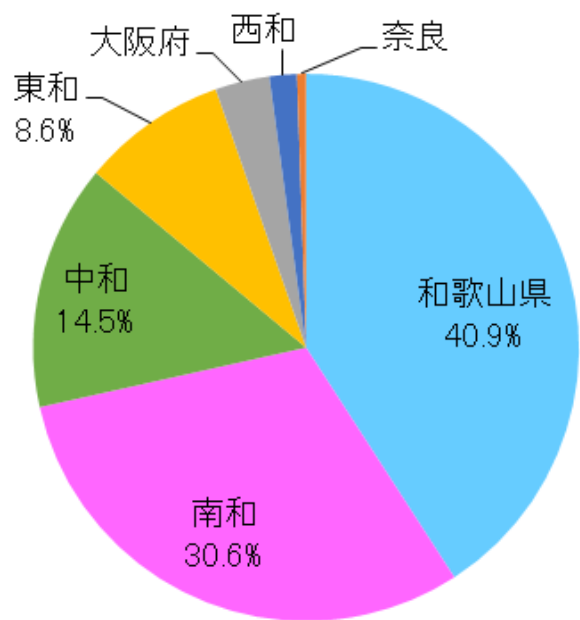


「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向(南和医療圏1)

○五條市の患者は、5割弱が南和医療圏の病院に入院しており、和歌山県の病院にも約3割、中和医療圏の病院にも1割強入院している。
 H27からH28・H29で、和歌山県への入院が減少し、南和への入院が増加。要因はH28の南奈良総合医療センターの開院による。

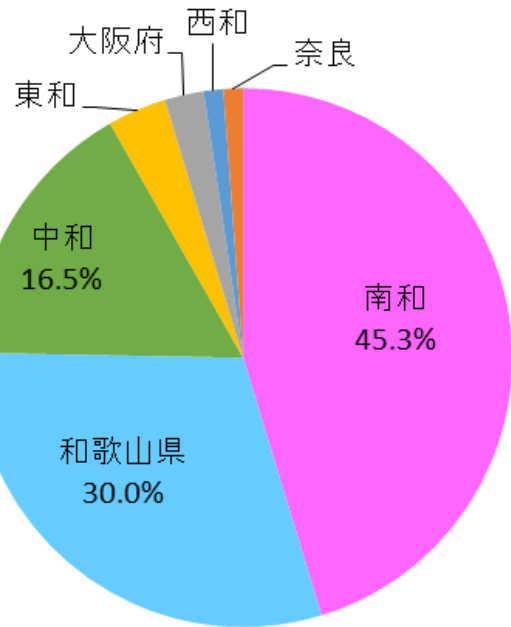
H27年度

五條市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



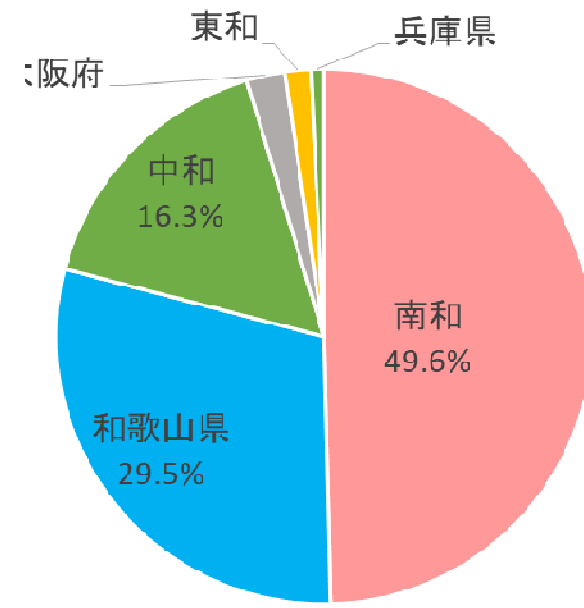
H28年度

五條市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

五條市在住者の「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



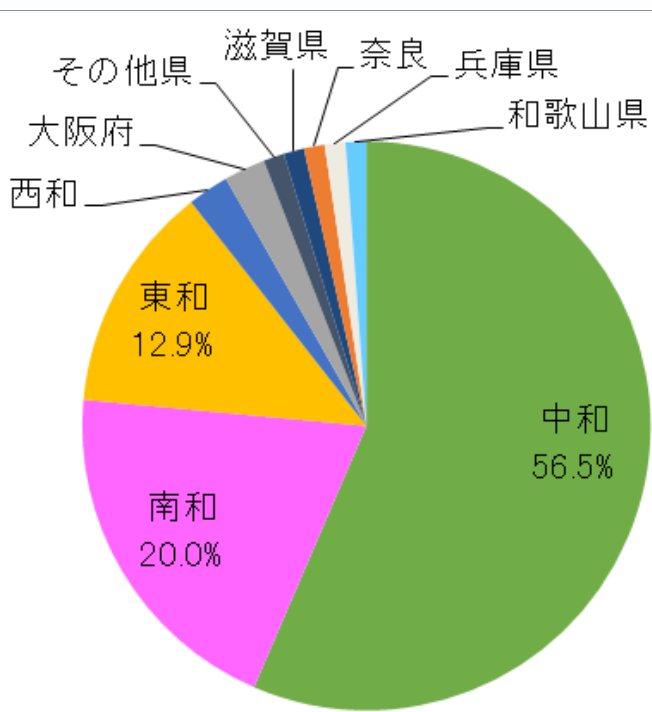
「脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血、急性心筋梗塞」入院患者の患者受療動向（南和医療圏2）

○吉野町・大淀町の患者は、6割強が南和医療圏の病院に入院しており、中和医療圏の病院にも2割強入院している。

H27からH28・H29で、中和への入院が減少し、南和への入院が増加。要因はH28の南奈良総合医療センターの開院による。

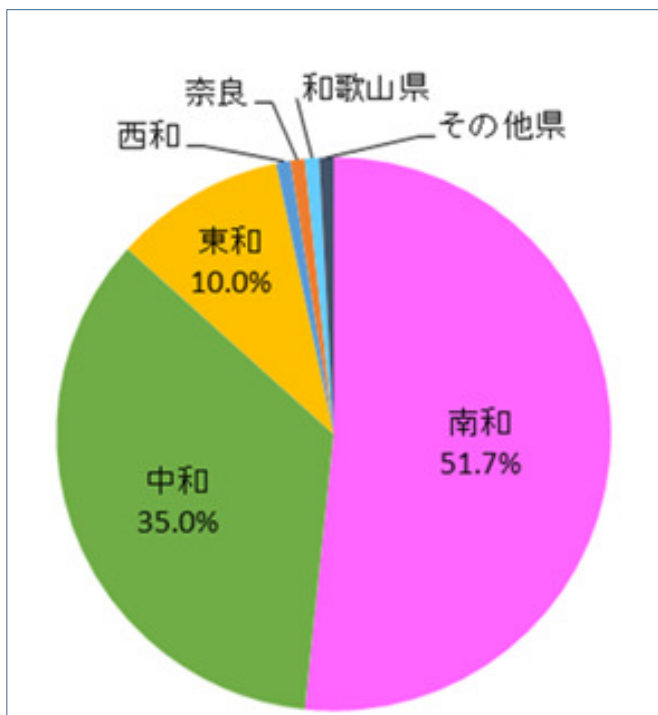
H27年度

吉野町・大淀町在住者の
「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



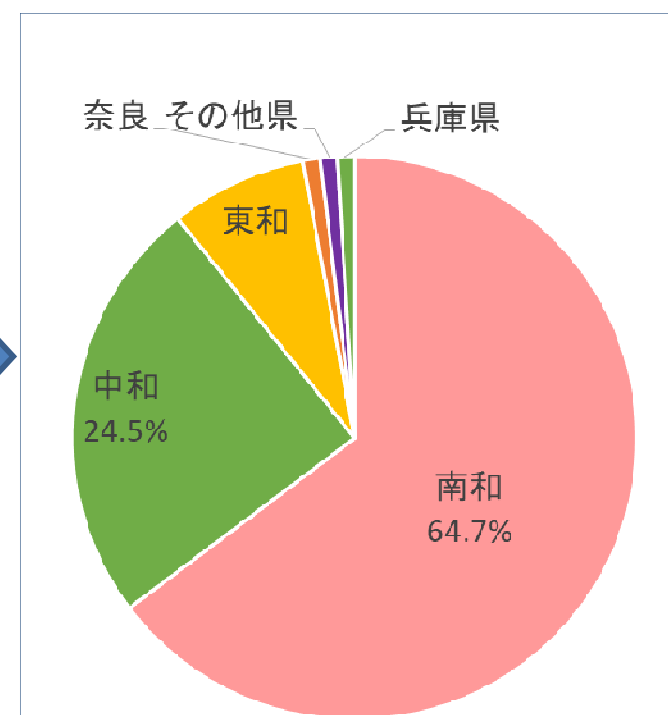
H28年度

吉野町・大淀町在住者の
「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



H29年度

吉野町・大淀町在住者の
「脳梗塞等」入院患者の入院先医療圏



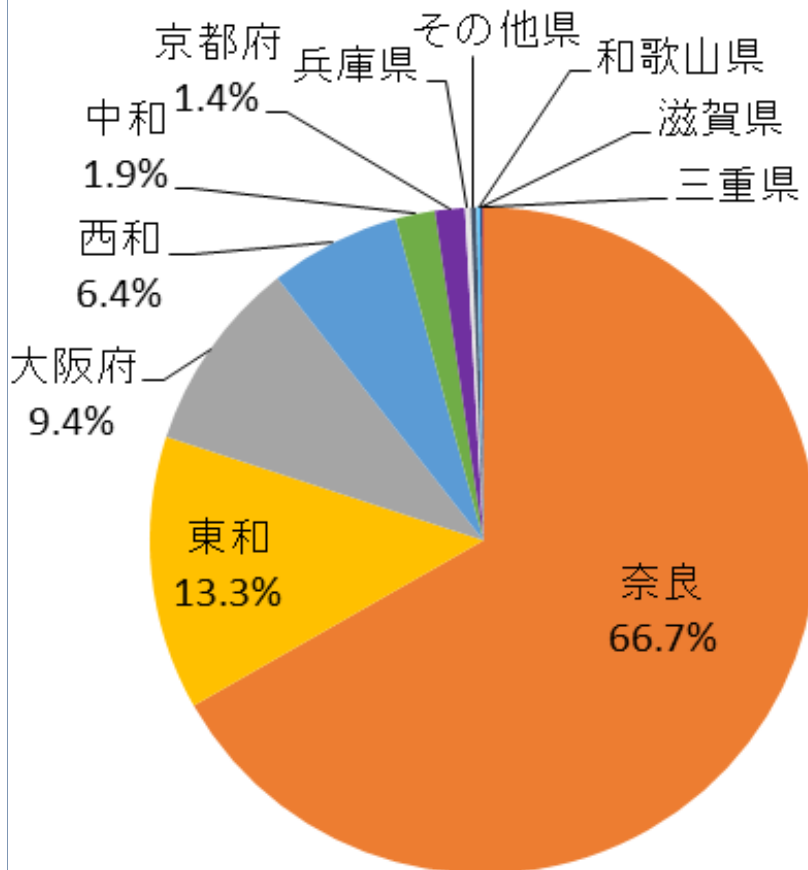
「5大がん」 入院患者の患者受療動向

5大がん入院患者の患者受療動向（奈良医療圏）

○奈良市の患者は、6割強が奈良医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院に1割強、大阪府の病院にも1割弱が入院している。
H28からH29で割合に大きな変化はない。

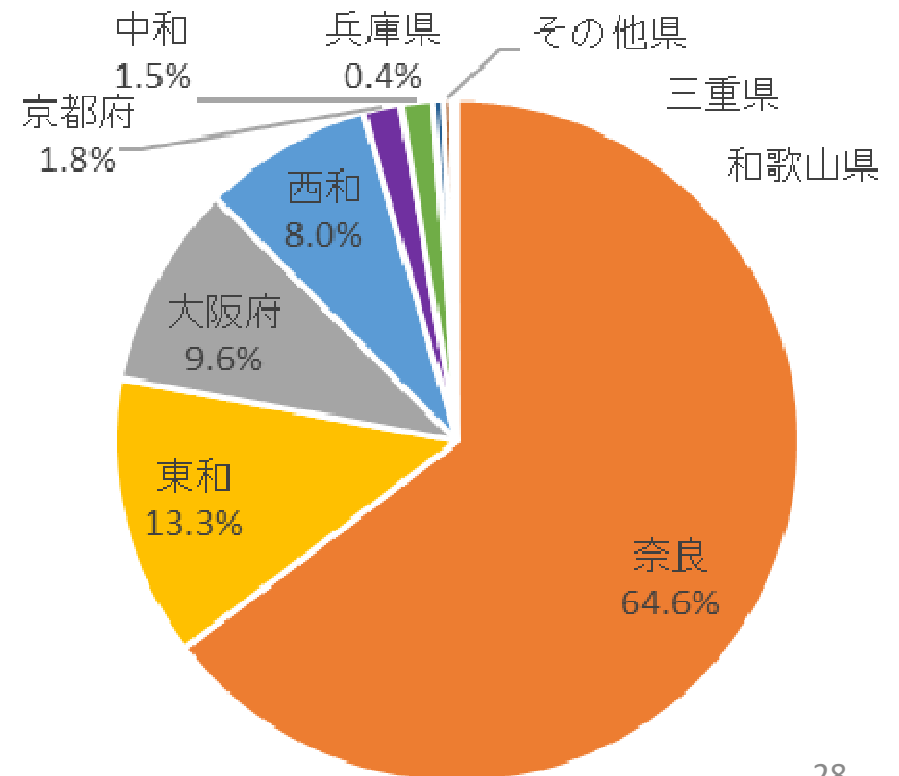
H28年度

奈良市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

奈良市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

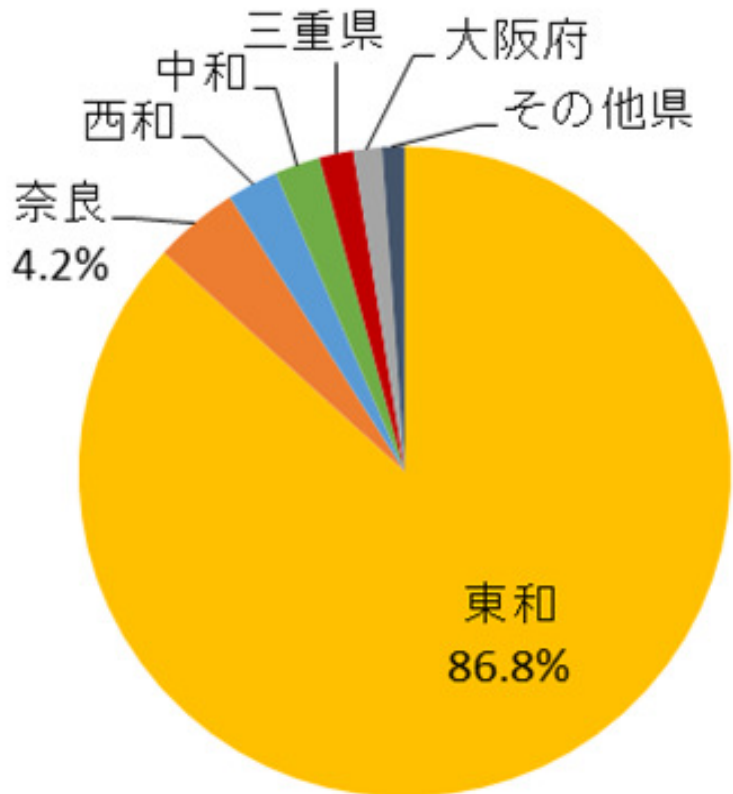


5大がん入院患者の患者受療動向（東和医療圏1）

○天理市、山添村の患者は、8割強が東和医療圏の病院に入院している。
H28からH29で割合に大きな変化はない。

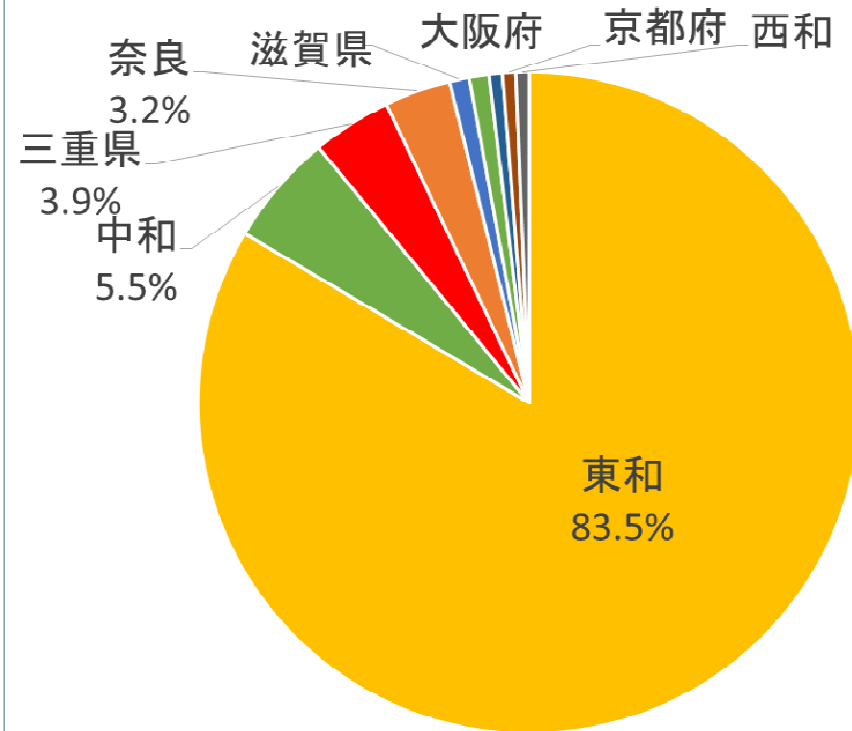
H28年度

天理市、山添村在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

天理市、山添村在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

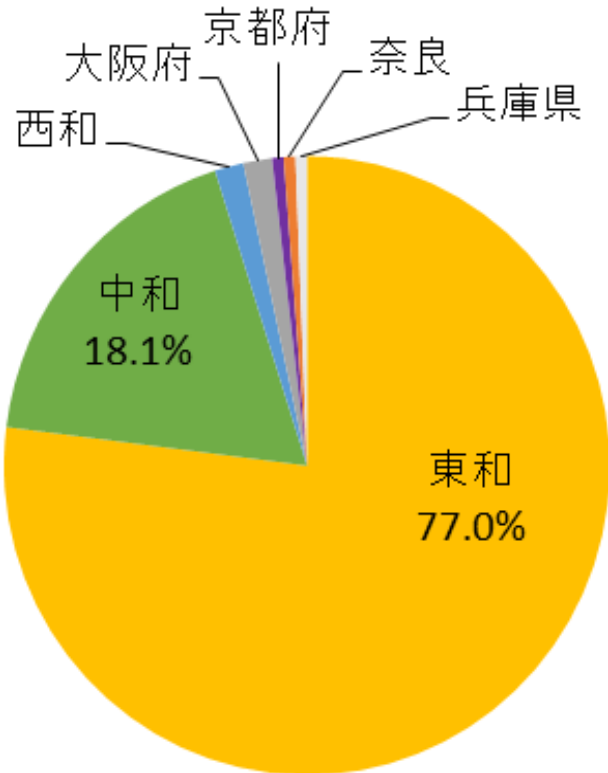


5大がん入院患者の患者受療動向（東和医療圏2）

○桜井市の患者は、7割強が東和医療圏の病院に入院しており、中和医療圏の病院にも約2割が入院している。
H28からH29で、兵庫県への入院が増加している。

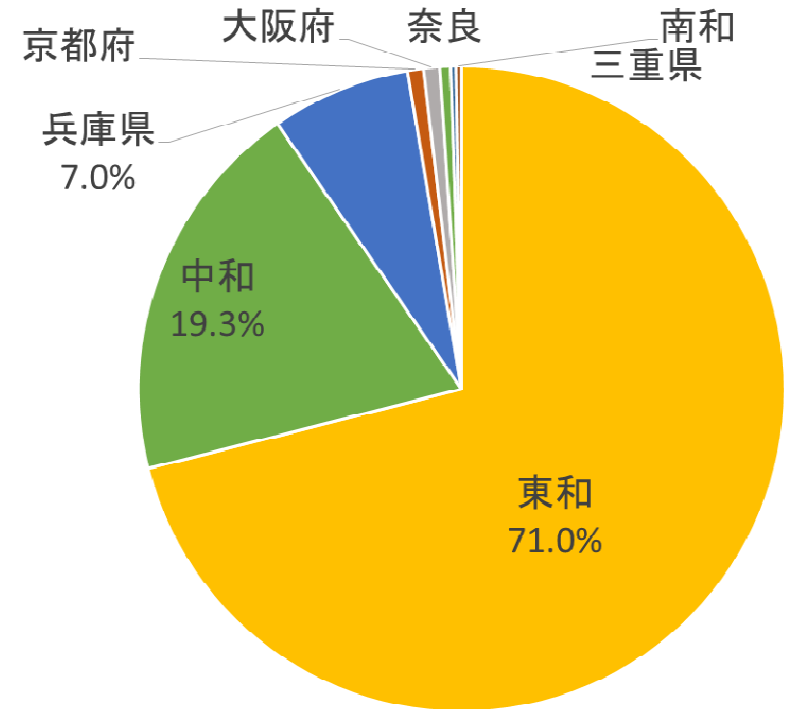
H28年度

桜井市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

桜井市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

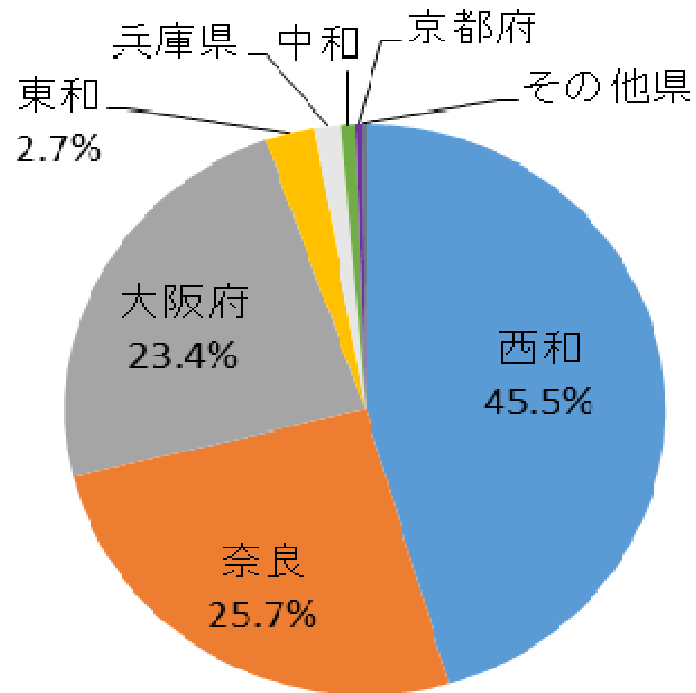


5大がん入院患者の患者受療動向（西和医療圏1）

○生駒市の患者は、半数弱が西和医療圏の病院に入院しており、奈良医療圏や大阪府の病院にも各2割強が入院している。H28からH29で割合に大きな変化はない。

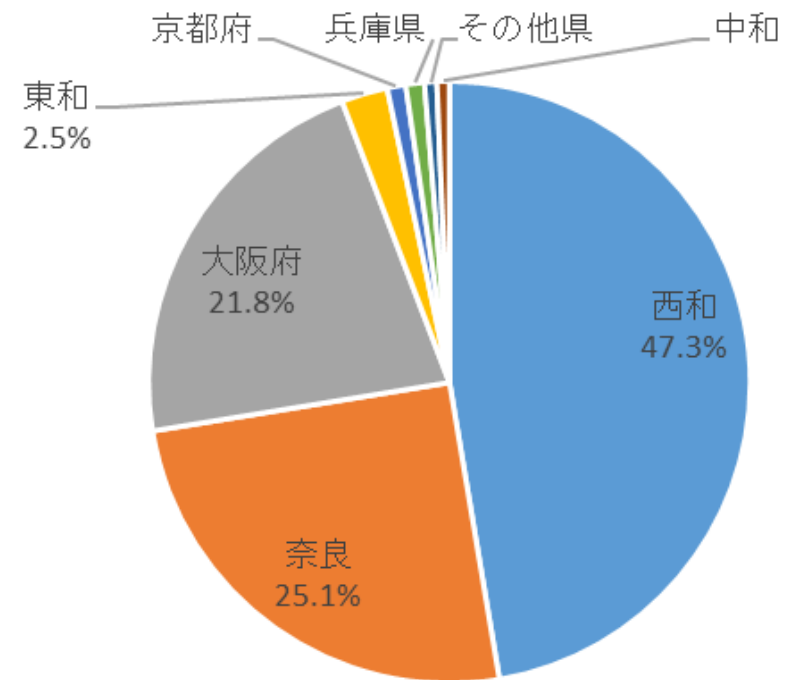
H28年度

生駒市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

生駒市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

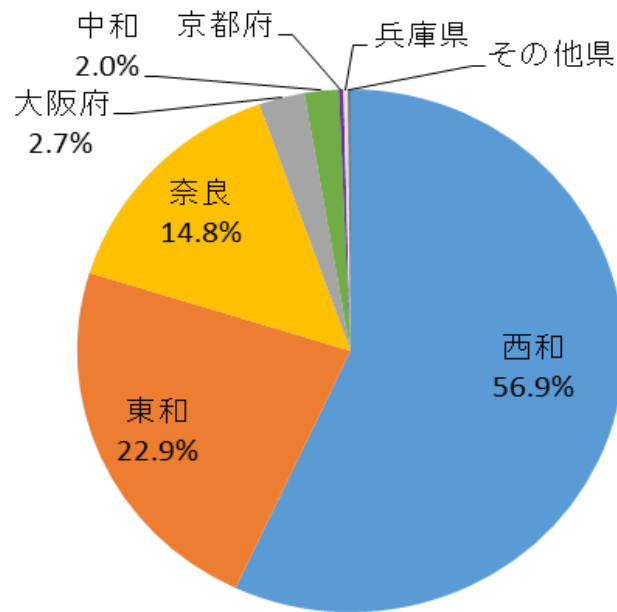


5大がん入院患者の患者受療動向（西和医療圏2）

○大和郡山市の患者は、半数強が西和医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院にも2割強、奈良医療圏の病院にも1割強が入院している。H28からH29で割合に大きな変化はない。

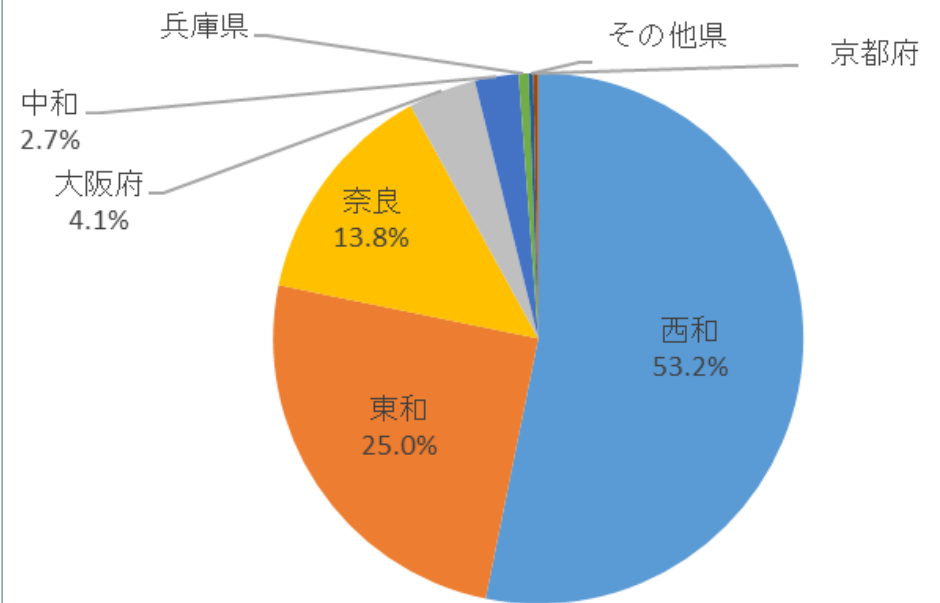
H28年度

大和郡山市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

大和郡山市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

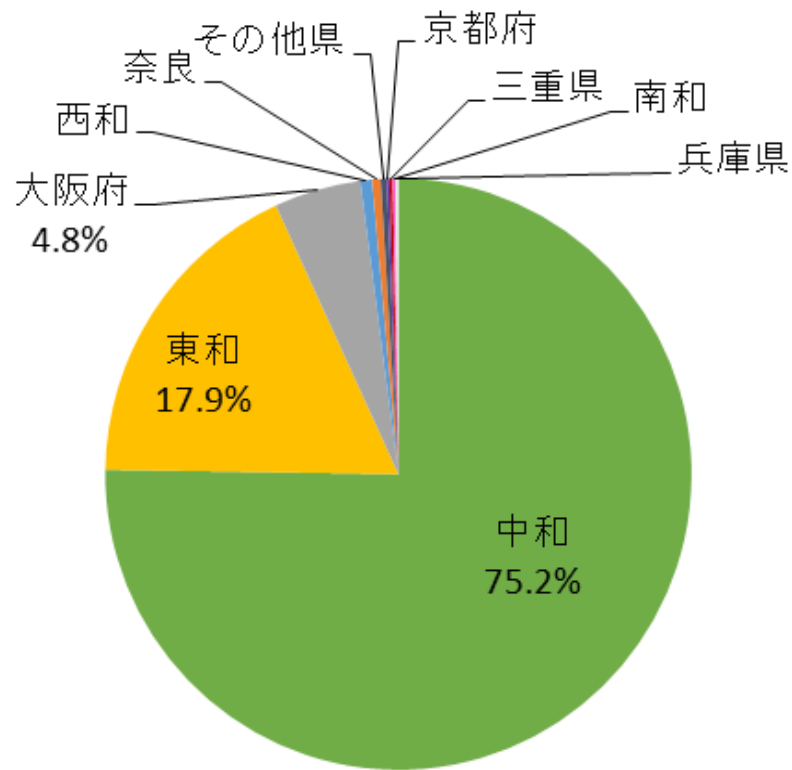


5大がん入院患者の患者受療動向(中和医療圏1)

○橿原市の患者は、7割強が中和医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院にも2割弱が入院している。
H28からH29で割合に大きな変化はない。

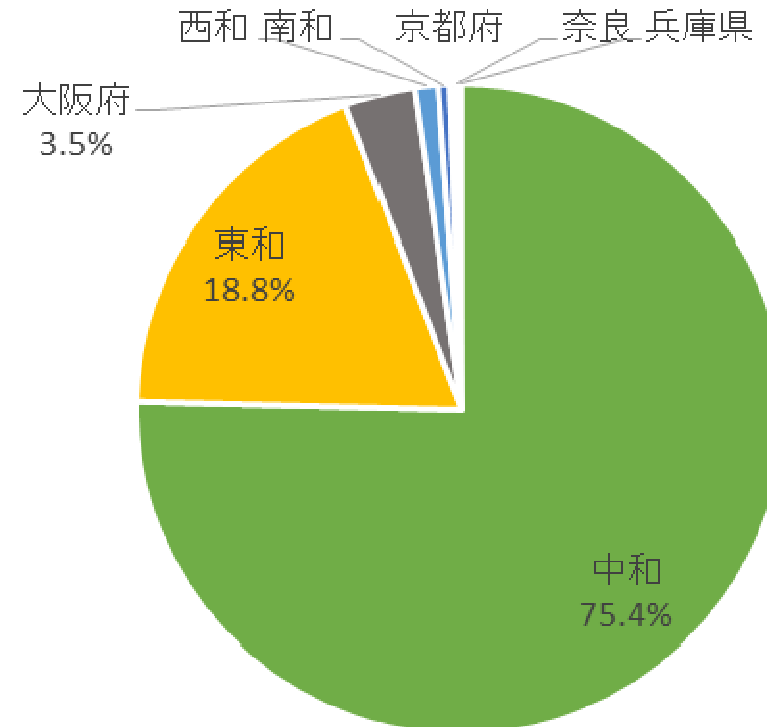
H28年度

橿原市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

橿原市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

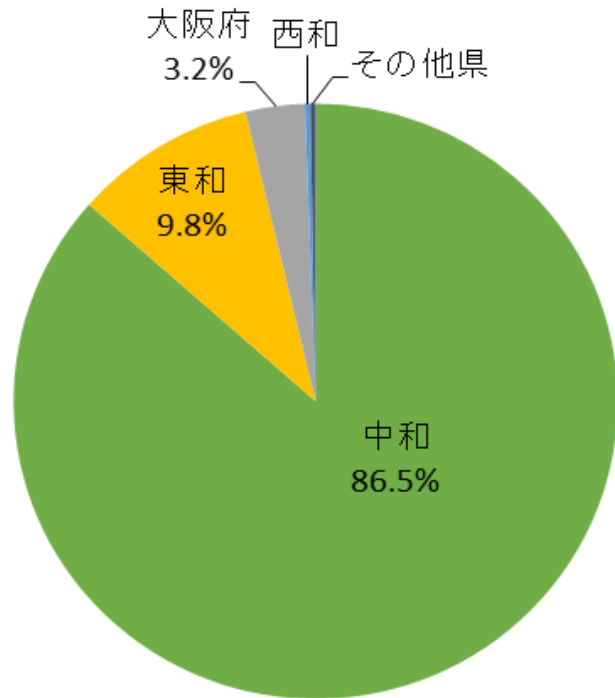


5大がん入院患者の患者受療動向(中和医療圏2)

○大和高田市の患者は、8割強が中和医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院にも約1割が入院している。
H28からH29で割合に大きな変化はない。

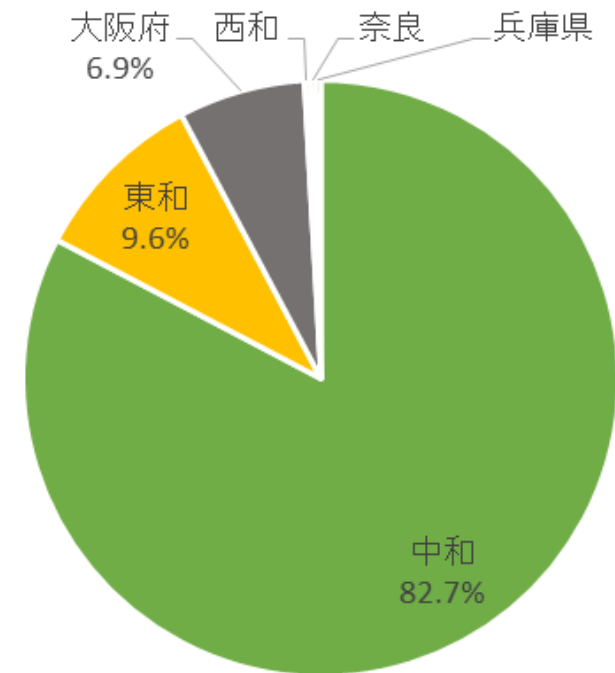
H28年度

大和高田市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

大和高田市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



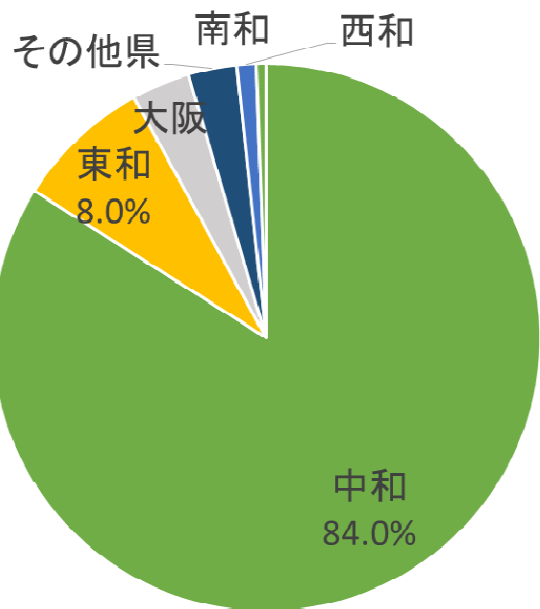
5大がん入院患者の患者受療動向(中和医療圏3)

○御所市の患者は、7割強が中和医療圏の病院に入院しており、東和医療圏の病院にも1割強が入院している。

H27からH29にかけて中和への入院が減少し、東和への入院が増加。H28の南奈良総合医療センター開院の影響は見られない。

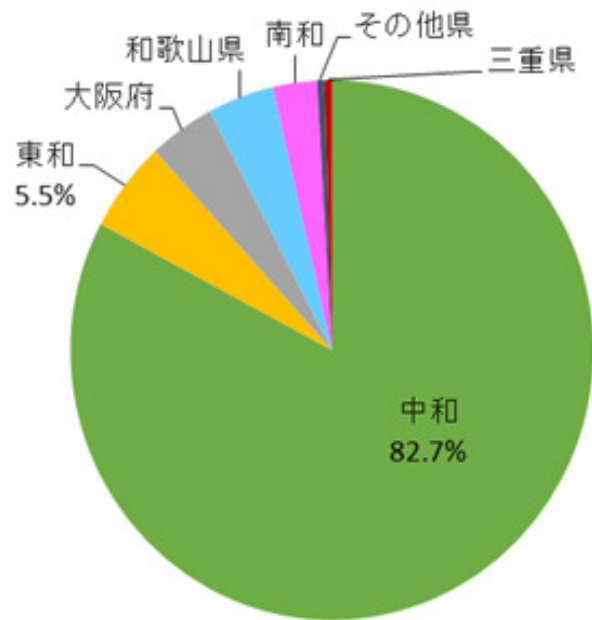
H27年度

御所市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



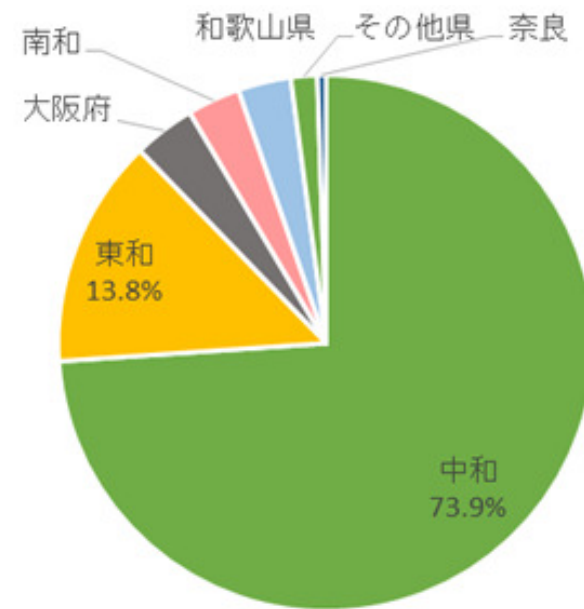
H28年度

御所市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

御所市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

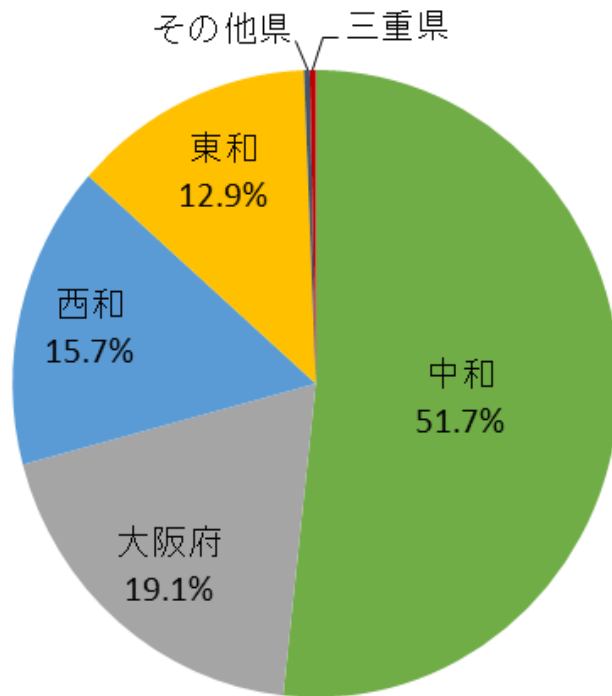


5大がん入院患者の患者受療動向(中和医療圏4)

○香芝市の患者は、半数強が中和医療圏の病院に入院しており、大阪府及び西和や東和医療圏の病院にも各1～2割が入院している。
H28からH29で割合に大きな変化はない。

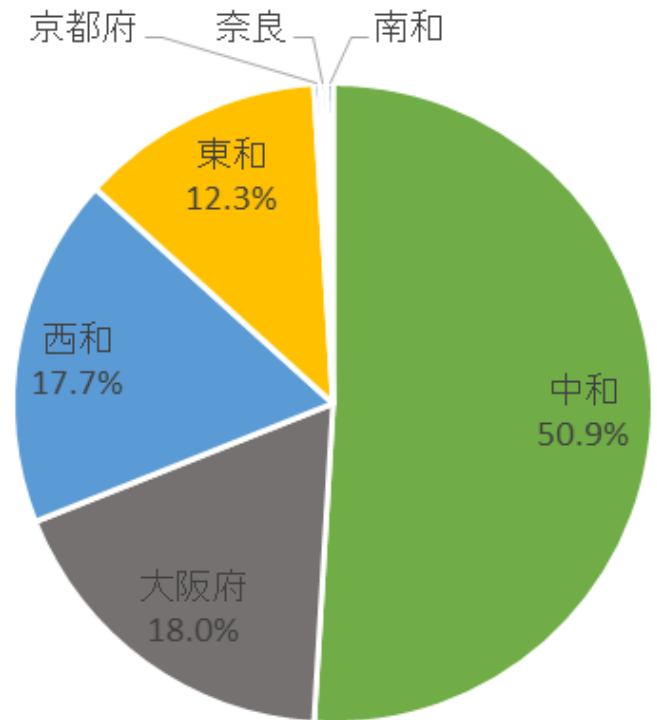
H28年度

香芝市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

香芝市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

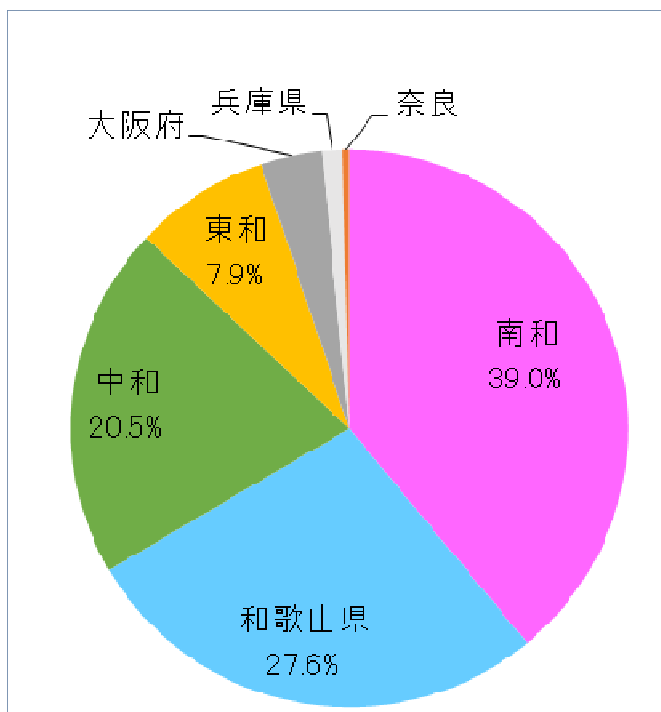


5大がん入院患者の患者受療動向（南和医療圏1）

○五條市の患者は、南和、中和、和歌山県の病院にそれぞれ2～4割程度が入院しており、東和医療圏の病院にも1割弱が入院している。
H27からH29にかけて割合に大きな変化はない。

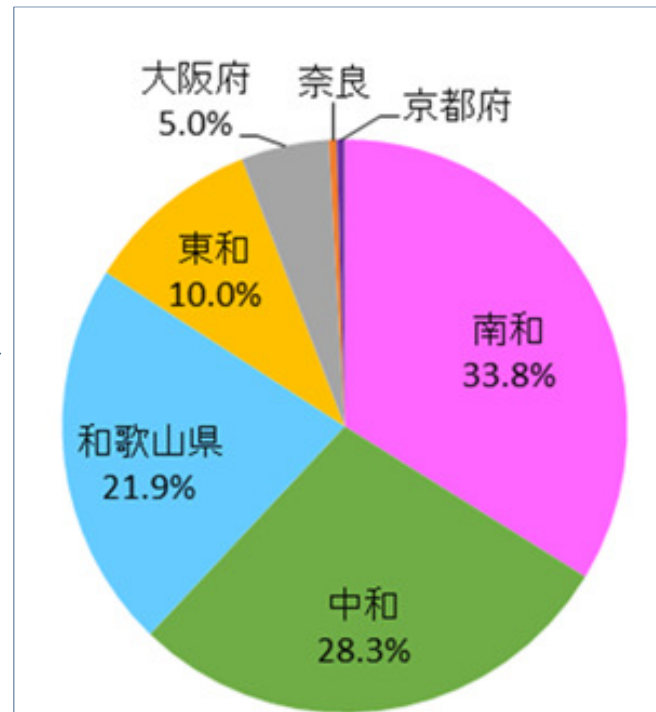
H27年度

五條市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



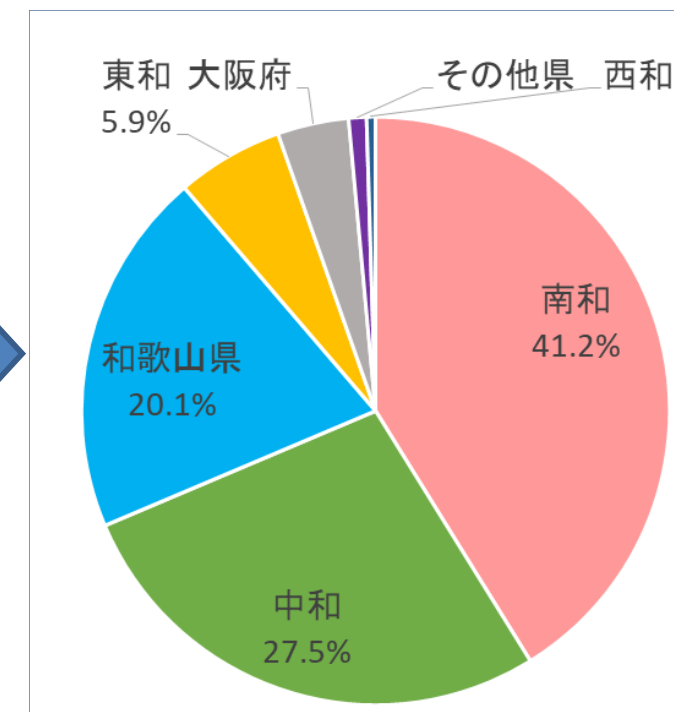
H28年度

五條市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

五條市在住者の「5大がん」入院患者の入院先医療圏

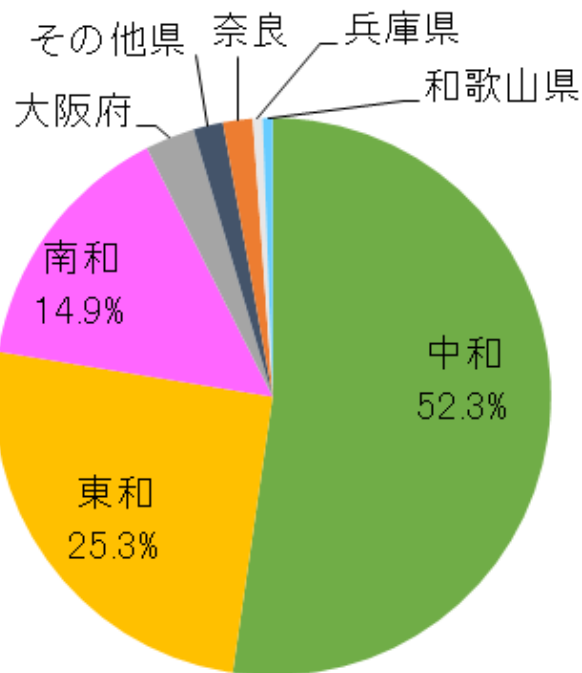


5大がん入院患者の患者受療動向(南和医療圏2)

○吉野町・大淀町の患者は、南和及び中和医療圏の病院に各4割程度入院しており、東和医療圏の病院にも1割強が入院している。
H27からH29にかけて南和への入院が増加傾向。要因はH28の南奈良総合医療センターの開院による。

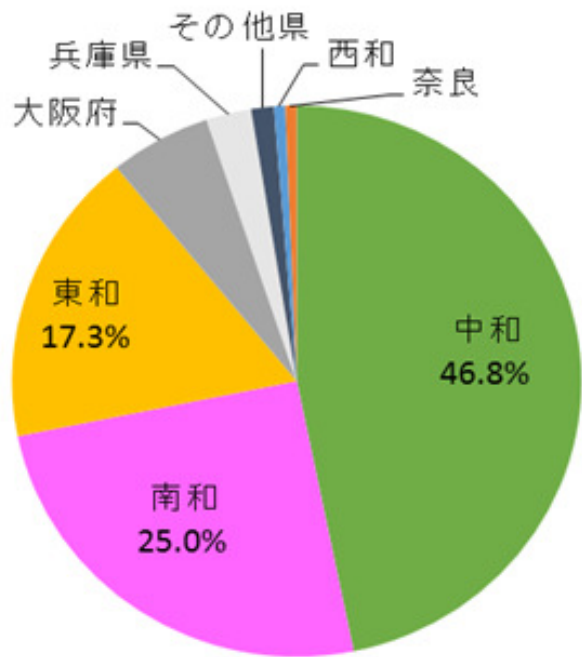
H27年度

吉野町・大淀町在住者の
「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H28年度

吉野町・大淀町在住者の
「5大がん」入院患者の入院先医療圏



H29年度

吉野町・大淀町在住者の
「5大がん」入院患者の入院先医療圏

